



文部科学省



経済産業省  
Ministry of Economy, Trade and Industry

### 参考資料 3

科学技術・学術審議会 人材委員会  
次世代人材育成WG（第1回）  
令和7年4月18日

企業で活躍する

# 博士人材ロールモデル事例集



我が国では、「博士＝アカデミアの研究者」というイメージが一般的ですが、博士の活躍の場は研究分野に限定されません。実際に社会では、深い専門知識や汎用的能力を生かすことはもちろん、博士課程での国際的な経験を生かしたり、博士課程での専門分野とは異なる専門性を身に付けたりするなど、専攻していた分野に関わらず博士人材が多様な場で活躍しています。

本事例集ではロールモデルとして、その多様な場での活躍事例をご紹介します。

## 博士を目指している皆さん



研究により得られる真理を深く探究する経験や、新たな価値を世界に問う経験は、本事例集に掲載されている方々のように、アカデミアのみならず産業界等の多様な場で活躍する大きな力になります。

また、博士課程は修士課程修了直後の方だけでなく、社会人にも門戸を開いており、博士課程で学ぶ手段も様々です。

ぜひとも本事例集から**社会で活躍する姿を描く**とともに、**博士課程に挑戦**し、じっくりと腰を据えて、思う存分研究に打ち込んでください。

## 大学関係者の皆さん



博士人材の社会での多様な活躍は、博士課程での学修成果・教育研究成果そのものです。各大学がこのような成果を、学生や入学希望者等に加え、産業界等も含め幅広く社会に対して積極的に発信していくことは、社会からの信頼と支援を得ながら、教育研究の質向上を図る上でも重要な意義があります。

本事例集も参考に、各大学においても、**修了者の活躍状況の把握・発信の取組**にご協力をお願いします。

## 産業界の皆さん



本事例集にも掲載されている通り、我が国の産業界においても既に多くの博士人材がその能力を生かして、多様な活躍をしています。また、**その活躍を高く評価して、採用拡大や処遇改善、従業員の博士号取得支援などの積極的な取組を進めている企業も増えてきています**。本事例集や「博士人材の民間企業における活躍促進に向けたガイドブック」を参考に、更なる活躍促進に向けた取組・協力をお願いします。

博士人材は新たな知を創造し、社会にイノベーションをもたらすことができる重要な存在であり、我が国が成長を続けるために必要不可欠です。博士人材の活躍促進に向けて、産業界や関係府省、大学・研究機関の皆さんとともに取り組んでまいります。関係者の皆さんの一層のご理解・ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

# - 目次 -

| お名前<br>(敬称略・五十音順) | 企業名          | 事例                                     | ページ | 分類    |
|-------------------|--------------|----------------------------------------|-----|-------|
| 相澤 憲              | 中外製薬株式会社     | 博士（生命科学） × 「レジリエンスの高さ」                 | 3   | ② ③   |
| 天野 麻穂             | HILO株式会社     | 博士（農学） × 「運と縁とチャンスをつかむ」                | 5   | ② ③   |
| 有光 剛              | 関西電力株式会社     | 博士（工学） × 「研究ノウハウを多分野で活用」               | 7   | ③ ④   |
| 伊勢田 一也            | 旭化成株式会社      | 博士（理学） × 「周囲を巻き込む」                     | 9   | ②     |
| 大場 証樹             | 株式会社アカリク     | 博士（工学） × 「共感力」                         | 11  | ②     |
| 海田 由里子            | AGC株式会社      | 博士（工学） × 「イノベーションにつながる着想力」             | 13  | ②     |
| 神戸 美香             | 帝人株式会社       | 博士（薬学） × 「常に学ぶ」                        | 15  | ③     |
| 古波藏 契             | ランドブレイン株式会社  | 博士（現代アジア研究） × 「企画力」                    | 17  | ⑤     |
| 佐竹 一紘             | 株式会社岩田商会     | 博士（応用生物学） × 「わかりやすく伝える力」               | 19  | ②     |
| 重永 美由希            | 株式会社リバネス     | 博士（理学） × 「ブリッジコミュニケーション力」              | 21  | ① ②   |
| 杉原 和樹             | 古河電気工業株式会社   | 博士（工学） × 「臆さず意見や提案が出来ること」              | 23  | ①     |
| 高村 愛              | 株式会社資生堂      | 博士（人文科学） × 「自身の能力を組み合わせた独自性」           | 25  | ⑤     |
| 竹内 司              | 株式会社島津製作所    | 博士（理学） × 「実行力」                         | 27  | ①     |
| 浅野 駿              | 株式会社島津製作所    | 博士（理学） × 「視野の広さ」                       | 27  | ②     |
| 立花 裕樹             | 塩野義製薬株式会社    | 博士（理学） × 「ゴールイメージを持つ」                  | 29  | ①     |
| 馬場 翔太郎            | 大和証券株式会社     | 博士（工学） × 「違う世界に同じ関心で挑戦」                | 31  | ②     |
| 古川 浩              | PicoCELA株式会社 | 博士（工学） × 「挑戦力」 × 「人脈」 × 「コミュニケーション能力」  | 33  | ①     |
| 大森 洋一             | PicoCELA株式会社 | 博士（工学） × 「挑戦力」 × 「人脈」 × 「コミュニケーション能力」  | 33  | ①     |
| 富樫 宏謙             | PicoCELA株式会社 | 博士（情報学） × 「挑戦力」 × 「人脈」 × 「コミュニケーション能力」 | 33  | ①     |
| ブルクバシ ケビン         | PicoCELA株式会社 | 博士（工学） × 「挑戦力」 × 「人脈」 × 「コミュニケーション能力」  | 33  | ①     |
| 古川 喜朗             | 株式会社大阪ソーダ    | 博士（理学） × 「新たな挑戦」 × 「継続力」               | 35  | ②     |
| 水田 和裕             | AeroEdge株式会社 | 博士（工学） × 「経営戦略」                        | 37  | ① ② ④ |
| 三輪 明寛             | 株式会社日立製作所    | 博士（工学） × 「オープンマインド」                    | 39  | ①     |
| 刑部 好弘             | 株式会社日立製作所    | 博士（工学） × 「越境力」                         | 39  | ①     |
| 山並 千佳             | 富士通株式会社      | 博士（国際公共政策） × 「他分野との連携による社会課題解決」        | 41  | ⑤     |

## 【本事例集での博士人材の活躍 5 分類】

①

専門的知見を生かして新規事業開発や収益向上等につながる活躍をされている例

②

課題発見・解決能力などの汎用的な能力を生かして研究開発以外の業務で活躍されている例

③

入社後に、専門とは異なる分野で専門性を身に付けて活躍されている例

④

博士課程における国際的な経験を生かしてグローバルに活躍されている例

⑤

人文社会の専門知識を身につけて活躍されている例

※ 敬称略・五十音順

※ 本事例集の情報は2025年3月時点のものになります。最新情報とは異なる場合もありますので、各企業HP等でご確認ください。

② 課題発見・解決能力などの汎用的な能力を生かして、  
研究開発以外の業務で活躍されている例

③ 入社後に、専門とは異なる分野で専門性を身に付けて活躍されている例

## 博士 × 「レジリエンスの高さ」



AIZAWA Ken  
相澤 憲 博士（生命科学）

中外製薬株式会社  
渉外調査部グループマネージャー

☑ 脳神経科学の研究により、博士号を取得。

困難や危機を乗り越える力  
予期せぬ事態へ柔軟に対応できる力

博士人材は“レジリエンス”が強み。研究に失敗はつきもので、未知の課題を捉えて繰り返し改善策をトライし、成果を形にしていけることになる。この経験から、失敗を恐れないメンタルやストレス耐性、やり抜く力が身に付くように思う。この力は、企業の業務に従事した際、トラブル発生時や想定と異なる事態が発生した時にも冷静に対応できる強みとなる。実際、研究職に限らず、プロジェクトを推進する立場やグループをマネジメントする立場になっても生かされていると感じている。

また、博士号を取得する過程では、自身の好奇心に導かれて定めた研究テーマやその成果を、共同研究者に説明して巻き込んだり、後輩指導などに繋げたりしながら研究を進める場面が多くある。物事を論理的・体系的に整理し、ビジョンを持って第三者に提示する力が鍛えられていると思っている。

幼少期から研究者への憧れを抱き、博士課程へ進学。博士課程1年時、周囲が就職活動に取り組む様子を見て、民間企業への就職を意識。薬を創り、人の命を救う仕事をするため、製薬業界への就職を志望し、中外製薬株式会社へ入社。

薬の研究開発に携わった後、経営企画を経て、現在は財界・業界団体や他企業と連携し社会課題解決に向けた政策提言等を行う部署に在籍。職務内容問わず生きている力は、博士課程で研究に取り組む中で培われたと語る。

学生へのメッセージ

博士課程に在籍する間、研究にどれだけ注力してきたかで、社会に出たときに備わっている能力に大きな差が出ます。博士課程での研究は真理の追究です。3年で終わることができなくても問題ないので、しっかり自分のやりたいことをやりとげ、研究をやりきって修了する方が、その後社会に出たときに輝くことができます。

また、あまりスマートにキャリアパスを描かなくても大丈夫ということをお自身自身の経験からお伝えします。道を描き、歩みたい人生のためエントリーする企業を決める方もおられると思いますが、入社後でも方向転換は可能で、いくらでも輝く機会があります。焦らずじっくり研究に取り組んでください。

### 経歴

| 役職                                 | 具体的な仕事内容                                                                      |
|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 2009年<br>営業本部・育薬研究部                | 自社で販売している医薬品の新たな作用機序解明などの基礎・臨床研究を行い、エビデンスを論文等にまとめたり、MRに同行して医療従事者へ科学的な説明などを行う。 |
| 2017年<br>オンコロジーライフ<br>サイクルマネジメント部  | 医薬品のタネとなる新規薬剤の市場導入を目指して、臨床試験や薬事対応などを、プロジェクトのリーダーとして社内の専門機能と連携して牽引する。          |
| 2019年<br>経営企画部                     | 全社戦略や経営計画の策定、役員業務の支援などを行ったり、外部環境や各部門の運営状況の把握・分析などを通じて、企業ミッションの実現を担う。          |
| 2022年<br>渉外調査部政策グループ<br>グループマネージャー | 自国・自産業・自社がイノベーションを起こすための環境づくりを目的に、国内外の経済団体等と連携し、主に政策提言を通じた規制改革推進などの活動を行う。     |

## ■ 「こだわりを持つ素質」は企業でも生かされる

博士課程での研究では誰もやっていないことに取り組む必要がある。未知で不確実なことや、たとえ周囲が反対することにでも、信念を持って取り組むことができる素質は、答えのないものを追究するという博士人材の持つ良い素質であり、企業においても生かすことができる。

## ■ 多くのリソースを活用できることが、企業で働く醍醐味

企業での研究は、研究資金や研究機器が大学に比べて充実している面はあるかもしれない。また、様々な背景を持つ方と仕事を通じて幅広い人脈を構築しながら一緒に仕事に取り組むことができるのも魅力の一つである。多くのリソースを活用し、企業ならではの規模感ある研究やイノベティブな研究ができることは面白いポイントかと思う。

## ■ 領域にこだわることなく、就職の選択肢を広げていく

学生時代の研究を続けることを考えて進路を選ぶのではなく、幅広く選択肢を広げてエントリーする企業や職種を考えることがお勧め。博士課程で培える強みとして、問題発見力やビジョン構築力といったコンセプチュアルなスキルがあり、これらはビジネスをする上でも基盤となる力である。技術的・専門的知識は、この基盤となる力の上に積み上げる形で入社後に新たに身に付けることでいかようにでもキャッチアップできる。

むしろ、企業を取り巻く環境変化に合わせて、入社してからも絶えず自己をアップデートし続けていくことが必須である。大学で取り組んできた研究テーマと、就職後に企業で取り組む業務や研究内容が変わるとしても何も問題はなく、心配はいらない。

## ■ 研究者の裁量が尊重される文化がある

中外製薬には博士人材のもつ“こだわりの強さ”を受け入れる文化・環境がある。仕事なので取り組むべき研究テーマはある程度定められるものの、研究者に与えられている裁量は大きい。将来成果が見込まれると研究者自身が考える研究について、影ながら応援する文化があると感じる。実際にその中から画期的製品に繋がった事例も多く、研究者にとってとても良い企業文化であると思う。



## 採用情報へのアクセス

- 採用ページ：<https://www.chugai-pharm.co.jp/recruit/new/index.html>
- 企業ページ：<https://www.chugai-pharm.co.jp/index.html>

仕事の内容・やりがい・キャリアパスについて発信しています！

- talentbook：<https://www.talent-book.jp/chugai-pharm>
- note：<https://note.chugai-pharm.co.jp/all>



## 博士人材採用のための取り組み

- ▶ 博士採用や通年採用（第二新卒含む）、ジョブ型研究インターンシップを実施
  - ・博士課程学生を含む採用（修士・学士も対象）にも応募可能
  - ・ジョブ型研究インターンシップ推進協議会ページ：<https://coopj-intern.com/>



## 博士人材の処遇について（2025年4月見込み）

- ▶ 給与
  - 4年制博士了：月給36万5000円
  - 3年制博士了：月給35万5000円
- ▶ 昇給
  - 年1回（4月）
- ▶ 賞与
  - 年2回（4月、10月）
- ▶ 休日休暇
  - 完全週休2日制（土・日）、国民祝日、年末年始、フレックス休日（年間4日）、年次有給休暇（初年度18日、最高23日まで）、ステップアップ休暇、慶弔休暇、出産休暇、ボランティア休暇等
- ▶ 勤務時間
  - フレックスタイム制度、裁量労働制（研究に従事する横浜研究所の一般社員）



## アピールポイント

- ▶ **革新的な創薬環境とグローバルな挑戦**  
 中外製薬は、革新的な創薬に挑戦できる最先端の研究環境を提供します。ロシュ・グループとの連携機会を通じ、グローバルな研究活動が可能です。
- ▶ **デジタル技術を活用した革新的な新薬創出**  
 AIを活用し、創薬プロセスの革新と効率化を推進しています。がん・免疫疾患領域での知見と、抗体・中分子医薬の強みを活かし、独自データとAI技術を融合しています。外部企業との連携でAI創薬を加速し、革新的な新薬創出に挑戦しています。
- ▶ **多様なキャリアパスと成長機会**  
 ジョブ型人事制度とジョブポスティング制度により、主体的なキャリア形成を支援します。高度専門ポジションの拡大や専門性を活かした活躍、また、専門領域を超えた活躍の機会を得ることができます。
- ▶ **社会貢献とやりがい**  
 製薬業界ならではの使命感と、患者さんへの直接的な貢献によるやりがいを感じられます。博士人材の能力を最大限に活かし、イノベーション創出を通じて社会に貢献できる環境です。

② 課題発見・解決能力などの汎用的な能力を生かして、研究開発以外の業務で活躍されている例

③ 入社後に、専門とは異なる分野で専門性を身に付けて活躍されている例

博士 × 「運と縁とチャンスをつかむ」



AMANO Maho  
天野 麻穂 博士(農学)

HILO株式会社  
代表取締役

✔牛乳アレルギーの構造解析の研究により、博士号を取得。

子供の頃のなりたい職業は編集者。高校で数学や化学への興味がわき、大学で博士課程まで行くと親に宣言。戦後すぐの世代の母の「女性が仕事を続けるにはライセンスが必要」との考えを受けて、博士まで行く＝専門家になれると母を説得。  
日本とアメリカの大学で研究し、職としては、研究・教育者を起点としてリサーチ・アドミニストレーター（URA）の経験を経て、現在は起業して株式会社HILOの代表取締役に就任。  
自身を「生命力があり、どんな環境でも生きていける」「一度きりの人生なので、自分を活かすことができる多様な職にチャレンジしたい」と語る。

博士課程での一番の学びは “多様性の受容”

博士課程での研究内容は牛乳アレルギーの構造解析。アレルギーのアミノ酸配列を1つ変えると惹起される免疫応答が微妙に変わるのがなぜなのか、構造解析から迫るテーマだったが、構造解析に関する国際誌に自身の研究成果を含むレビューを書いて学位を取得した。博士2年の1月～博士3年、ポスドク1年目にかけての期間、日本学術振興会特別研究員-DC2の支援を受けた。ポスドク1年目は米国UCLAで研究し、日本学術振興会特別研究員の支援が切れた後もラボのPIが研究継続を勧めてくださり、トータル3年間お世話になり、3本の論文を提出した。  
修士課程までと博士後期課程で大学が変わったが、大学・学部・研究室により文化が全く異なる。研究室にいる人たちは、学問を究め、真理を追究したい思いは共通だが、実に色々な人がいる。多様な人に出会い、多様性を受容することを体感できたのは自分の人生において大きなことだった。

学生へのメッセージ

その時々で、目の前のことに一生懸命取り組み、身体が元気だったら必ず生き延びていきます。私は珍しいキャリアパスを歩んできましたが、その時々で自分が一番やりたいことに合う運と縁に恵まれ、チャンスをとらえてここまで歩んできました。  
博士後期課程学生の間は、雑念にとらわれず、自分の好きな研究に打ち込める貴重な時期であり、研究を通して学ぶこともたくさんあるので、一生懸命、思い切り、自分自身で納得できるような良い研究をしてください。  
また、機会があれば学会の若手会や研究集会などにも顔を出すと良いと思います。他大学や企業など異なる環境に身を置く同世代の研究者とディスカッションすると、さまざま、よい刺激を受けられますよ。

経歴

| 役職                         | 具体的な仕事内容                                                          |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 2003年～2006年<br>研究助手→専任講師   | 昭和女子大学生生活科学部生活科学科にて、腸内細菌と糖鎖生物学の研究・教育に従事。講義（最大時週10コマ）のほかクラス担任も経験。  |
| 2007年～2014年<br>特任助教        | 北海道大学大学院先端生命科学研究院にて、糖鎖化学の研究と教育に従事。院生の研究指導と共同研究案件で日が暮れ夜が明ける毎日。     |
| 2014年～2019年<br>URA         | 北海道大学本部のURAとして、研究戦略立案等に従事。北大病院や医学研究院への出向、研究者伴走支援や起業支援も経験。楽しかった。   |
| 2019年～2024年<br>助教→講師→特任准教授 | 北海道大学大学院医学研究院にて、細胞生理学教室のラボマネジメントに従事。起業準備のほか、研究広報、競争的資金の獲得支援も。多忙。  |
| 2021年～現在<br>代表取締役社長        | HILO株式会社にて、会社経営に従事。スタートアップの社長業務は資金調達のほか事業計画策定、その他あれこれ。名前のない業務も多い。 |

## ■ 研究者からURAへ

寄附講座の教員をしていた時、寄附をしていていた会社が倒産した。その時が42歳、研究を始めて20年で、この後定年までもおおよそ20年、ちょうど折り返し地点にいたと感じた。一度きりの人生なので、今までの経験が生かせる別の仕事がしたいと考え、その時に北海道大学のURAの公募があったため応募した。研究開発マネジメントへの関心に加え、留学生に日本人学生の有する基礎学力を身に付けられるよう再教育を行う仕組みが作れないか、女性活躍といっても子育て支援しかしていない状況を変えられないかなど、大学運営上の諸課題に関する関心が高かった。

## ■ URAから起業、株式会社の代表取締役へ

北海道大学の太田教授の研究成果である、蛍光バイオイメージングを用いて個々の細胞における薬剤反応性を可視化する技術を世の中にどのように出していくか考えた時、科研費等の研究費をもらって行う話ではないため大学の中では実現できず、産学連携の枠組みを活用して行っていたが、それも会社の方針転換で先に進めなくなってしまった。当該技術で特許を取得していたので他の会社と協働しようとしたが、既存のビジネスモデルに合わず成立しなかった。一方で、患者さんも臨床の先生も世に出してほしいとの声が強かったので、自分たちでやるしかない状況となり、起業することとなったが、今度は会社の社長になる人がいない。そこで「私やりましょうか?」と申し出て、北海道大学のURAからHILO株式会社の代表取締役となることとなった。

## HILO株式会社の経営を通じ感じること

## ■ 研究者と経営者の共通点

自分で考えて決断して行動すること。これが研究者と経営者の共通点。その分、責任もちろん全て自分が負う。また自分のキャリアを振り返ると、研究者要素にURAの研究経営、管理的観点を加えると会社経営の素養になる。取り組んできたことに一つも無駄なことはない。

## ■ 会社経営

研究者やURAと経営は全くやることが異なる。投資家の納得を得る説明など、各論的に経営に関する様々な知識を獲得する必要がある、放送大学の会計学の講座等を活用し学習した。起業支援といって起業することの支援に力が入っているが、起業した後の成長支援、伴走支援が重要であると実感している。



## 採用情報へのアクセス

|          |                                                                                                             |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://www.horizonillumination.co.jp/careers/">https://www.horizonillumination.co.jp/careers/</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://www.horizonillumination.co.jp/about/">https://www.horizonillumination.co.jp/about/</a>     |



## 博士人材採用のための取り組み

インターンシップ（2025年夏から実施予定）



## 博士人材の処遇について（2025年4月見込み）

|      |                                                                                                 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 給与時給 | 2,590円/時（修士了1,860円/時）                                                                           |
| 給与改定 | 不定期                                                                                             |
| 賞与   | 原則なし                                                                                            |
| 休日休暇 | 休日：完全週休2日制（原則土日祝休。臨床検査関連業務で休日出勤した場合は振休取得）<br>休暇：法律で定められたもののほか、年末年始休暇、リフレッシュ休暇、慶弔休暇、子の看護休暇、生理休暇等 |
| 勤務時間 | 3か月精算完全フレックス制                                                                                   |



## アピールポイント

会社の成長を体験できること、新しい技術を社会に出していくことを体験できること、そのことを通して社会にイノベーションが起きることを体験できることが、当社のアピールポイントです。

職場環境としても、コアタイムなしの3か月精算完全フレックス制なので、3か月単位で多く働く時期と家庭に多く時間を割く時期を組み合わせる計画することができ、とても働きやすい職場です。

物理的な拘束は可能な限り排除して、多様な働き方ができるように工夫しています。

③入社後に、専門とは異なる分野で専門性を身に付けて活躍されている例

④博士課程における国際的な経験を生かしてグローバルに活躍されている例

## 博士 × 「研究ノウハウを多分野で活用」



ARIMITSU Tsuyoshi

有光 剛 博士(工学)

関西電力株式会社 再生可能エネルギー事業本部  
水力エンジニアリングセンター 海外水力グループ  
総括課長

✓ 海岸の長期的変形特性に関する研究により、博士号を取得。

博士号を取得した後、専門性を生かした多分野の課題解決は自分にしかできない役割と考え、19年間にわたり関西電力株式会社の研究所で勤務。これまで、土木部門が直面する多分野の課題に対応しながら、査読論文を60本以上書き上げ、学協会の論文賞も受賞するなど、多くの研究業績を生み出してきた。

博士課程での研究により一つの分野を究め、尖らせる経験を積むことで、身に付けた研究ノウハウを周りの分野や別の課題に生かすことができ、細分化された分野をまたぐことや、何かが起きたときに対応することもできると語る。

### キャリアの転換点では、いつも研究経験が生きる

東日本大震災発生までは耐波設計や海浜変形などの研究に従事していたが、震災後は、会社独自で津波に関する評価を行う必要性から、それまで社内に蓄積が少なかった津波関連の研究を新たに開始した。専門性のみならず、これまで行ってきた研究開発や課題解決の手法などの研究ノウハウや人脈を津波の研究に活用することで、研究業績をあげ、技術基準への掲載など、技術の進歩に貢献することもできた。

また、19年間務めた研究所から、水力事業に関する部署に異動し新たな業務に取り組んでいるが、技術的な課題を解決するという点や、課題解決に向けて一つ一つ積み上げていく点は、「研究」と同じである。

加えて、博士号を持っていたことも大きく影響し、京都大学の特定准教授として、日本のダム再生に関する知見を世界に発信していくという貴重な取組に参画するチャンスも得た。

### 学生へのメッセージ

電力会社は発電所という現場を持っており、現場の課題に直結した研究を行うことができます。民間企業に就職する場合、大学での基礎研究とは異なり、事業や現場に関連するテーマの研究を担当することができますが、これは、お客様・株主・地域社会・従業員などへの価値提供に直結するものとして、また、研究成果をすぐに活用することができる点で、とてもやりがいを感じることができます。

博士課程で身に付けた専門性・論理的思考・課題解決力・人脈は、新たな研究・新たな業務に生かすことが可能です。また、博士の学位を持っていることは、将来のチャンス拡大の可能性を高めてくれると思います。

「これは私にできるかな」という迷いや不安を感じることもあると思いますが、チャンスを生かすために「迷ったらGO!」という気持ちで積極的な挑戦を期待しています。

### 経歴

| 役職                                 | 具体的な仕事内容                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2001年～2020年<br>シニア・リサーチャー<br>(研究職) | 1999年に関西電力に入社後、現場勤務を経て、2001年に研究部門（技術研究所）に異動。海浜変形、耐波設計、河床変動など、海岸分野や河川分野の研究に従事。東日本大震災発生後は津波波力、津波砂移動などの津波関連の研究にも従事。（担当者→副主任研究員→シニア・リサーチャー）                                                |
| 2004年～2007年<br>(博士課程学生)            | 業務を行いながら、大学院の工学研究科土木工学専攻の博士後期課程に在籍し、業務で担当した研究課題に対して、学部・修士時代の恩師の指導を仰ぎながら博士論文を取りまとめ博士号を取得。（混合砂礫海岸の漂砂移動と海浜断面形状予測に関する研究）                                                                   |
| 2020年～現在<br>総括課長（管理職）              | 19年間の研究所勤務の後、水力エンジニアリングセンターに異動し、水力事業に関する技術検討を担当。<br>2024年に国内水力グループから海外水力グループへ異動し、現在、海外水力事業の新規開発・保守・運用に関する技術検討を担当。                                                                      |
| 2024年～現在<br>京都大学 特定准教授             | 博士の学位を持っていたことによりチャンスを得て、クロスアポイントメント制度で京都大学特定准教授を務める。（京都大学防災研究所水資源環境研究センター（ダム再生・流砂環境再生技術研究領域）にて、関係9機関とともに、洪水調節機能の強化や水力発電の拡大に向けた「ダムの再生」とダムの長寿命化と河川・海岸環境の改善のための「流砂環境の再生」の両面から技術開発を進めている。） |

## 構築物の一生を見ることが出来る点に魅力を感じて関西電力に

修士課程で海の波を研究しているなか、設計・施行・維持管理まで土木構築物の一生を見ることができ、人々の生活を支えているところに魅力を感じ、ゼネコンでもコンサルでもなく電力会社である関西電力に就職した。

### 現場から研究所への異動

入社直後の現場勤務時代の業務の一つとして、砂浜の波による変形の調査を担当しており、「今日の砂浜は高い・低い」と何度も砂浜に出向いて調査を行っていた。今思えば、研究所への異動は、当時の上司が現象を突き詰めることが向いているという自分の特性を評価してくれたものだったのではないかと感じている。

### 社会人ドクターとして学び直し

研究所に入って与えられた研究テーマの一つに砂浜の研究があった。大学時代の恩師は砂浜研究の第一人者であったため、恩師のもとで学び直しをしたいという思いが高まり、社会人ドクターを選んだ。また、入社時に先輩から「何か一つでも、これだけは他人に負けない、ということをも身に付けると良い」と助言をもらっていて、博士号の取得は自身の強みを身に付けることになると考えた。

会社の業務として与えられた研究テーマと関連付けて博士研究のテーマ設定をしたことで、業務の一環として研究を行うことができた。会社の理解もあった。実務・事業に直結する課題であったので、業務に即して具体的に研究に取り組むことができた。

### 博士課程で身に付く力

博士課程の3年間で出会った様々な人脈や関係性は、そのまま継続して他の業務にも生かすことができた。論理的に組み立てて、課題を解決していくという、研究のノウハウは、研究テーマに関わらず応用ができる。

### 研究ノウハウは応用できる

数値計算、シミュレーション、実験方法のみならず、検討結果を見て評価をして結論を導き出すという研究プロセスそのものも研究ノウハウである。博士研究をしっかりと行うことで、テーマに対してゴールにたどり着くまでのすべての過程を経験でき、課題を解決するための道を創ることが出来るようになる。これは研究でなくともどんな業務でも一緒だと感じている。

## 会社情報



### 採用情報へのアクセス

|          |                                                                                                             |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://www.kepco.co.jp/firstcareer/index.html">https://www.kepco.co.jp/firstcareer/index.html</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://www.kepco.co.jp/">https://www.kepco.co.jp/</a>                                             |



### 博士人材採用のための取り組み

- 大学と共同で研究プロジェクトを立ち上げることで、博士人材との接点を増やしています。
- 各事業部門の専門領域等で学会やキャリアフォーラムに参加し、博士人材との交流を深めています。



### 博士人材の処遇について

|             |                                         |
|-------------|-----------------------------------------|
| 初任給(2024年度) | 本人の経験等を踏まえて、個別に決定                       |
| 昇給          | 年1回(4月)                                 |
| 賞与          | 年2回(6月、12月)                             |
| 休日休暇        | 土曜日、日曜日、祝日、年末年始、年次有給休暇、夏期休暇、その他各種特別休暇あり |
| 勤務時間        | フレックスタイム勤務(1日標準:7時間40分)                 |



### アピールポイント

当社の仕事は人々の生活や社会を支える、非常にやりがいのある仕事です。エネルギー業界が変革期を迎えている中、電力の安全・安定供給という使命に加えて、「エネルギー分野における日本のリーディングカンパニー」として大きく飛躍するべく、国内での電力事業に留まらず、海外事業や情報通信事業、生活・ビジネスソリューション事業など幅広く展開しています。また、持続可能な社会の実現に向けて、「ゼロカーボンビジョン2050」を掲げて、カーボンニュートラルにも注力しています。その中で、再生可能エネルギー開発や水素事業のサプライチェーン構築、データセンター事業など、事業戦略に対応する人材の獲得も積極的に行っています。

② 課題発見・解決能力などの汎用的な能力を生かして研究開発以外の業務で活躍されている例

## 博士 × 「周囲を巻き込む」



Iseda Kazuya

伊勢田 一也 博士(理学)

旭化成株式会社  
マネジャー

✔ 高分子材料の研究により、博士号を取得。

「絶対に研究者になりたい」という強い思いがあったわけではなかったが、どうせやるならとことん自分を鍛えたいと思い、一番厳しいラボを選択し、博士課程まで進学。超分子化学に関する研究に没頭した。全力で研究に取り組んだからこそ、研究の楽しさ、未知に挑むことの難しさと奥深さに気づくことが出来た。就職してからは研究職だけでなく人事部や監査役室へ配属されたこともあり、博士で培った「全力で物事に取り組む力」、「仮説力」のおかげで、未知の領域でも成果を残すことが出来たと語る。

## —— 未知に対してアクションをしないのが一番の“リスク” ——

学生時代、今のアカデミアの環境を変えないと、日本の国力は低下すると感じていた。だが、それは内部からではなかなか変えられそうにないと思い、産業界からアプローチすべく旭化成株式会社に就職した。

入社当初は研究開発本部に配属となり、博士の専門性を十二分に発揮していたが、次に異動したのは人事部。研究職では自分一人で結果を出すことに注力していたが、人事部に来て、一人でできることには限りがあることを痛感するとともに、周囲を巻き込むことで自身の可能性が広がることを実感した。

人事部の後は監査役室に異動。全く知らない世界で研究者としての力量は一切関係ない。就職して一番大変な期間だった。

ただ、どの部署でも共通で根底にあるのは「未知なことにアクションしないことが一番のリスク」というマインド。人事部、監査役室の業務に食らいついていき、未知の領域へも果敢に挑戦していった。

## —— 学生へのメッセージ ——

博士課程学生に対する講演を依頼されるとき、「博士が生きる道は研究だけじゃない、と言ってほしい」と言われることがあります。私はそれは違うと思っています。私が研究とは無縁の職場でそれなりにやれた理由は、学生時代にとことん研究に没頭したからだだと思います。だから、私が学生に一番伝えたいことは「どんなことでもいいので目の前のことを、なりふり構わず全力で取り組んでください」ということです。そうすることで自分が得意なことや出来そうなこと、苦手なこと、そして自分の軸が見えてきます。

さらに可能であれば、一度今とは全く異なる環境に身を置いて、そこでも全力で取り組んでほしいです。もし違和感を覚えれば「やっぱり自分が向いている職業は研究者なんだ」と気づくことも出来ます。また、一度環境を変えることで「意外とこういう世界もあるんだ」という新たな気づき、視座を得ることもあり、それが自分の可能性を広げることに繋がります。

## 経歴

| 役職                       | 具体的な仕事内容                                                        |
|--------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 2014年～<br>研究開発本部 研究員     | “自動車向け高機能性コーティング剤の開発”（テーマ立ち上げ、要素技術開発、顧客候補開拓）                    |
| 2018年～<br>人事部 採用担当       | “技術系新卒採用担当”（採用戦略の立案と実行、大学等とのネットワーキング、博士卒採用担当としての広報活動）           |
| 2020年～<br>研究開発本部 主査      | “自動車窓ガラスの樹脂代替技術の開発と事業化”（テマリーダーとして事業化に向けた要素技術確立）                 |
| 2022年～<br>監査役室 マネジャー     | “監査役専任スタッフ”（監査役補佐業務全般、監査計画の立案と遂行、監査役会運営、監査役会の実効性向上に向けた施策の立案と遂行） |
| 2024年～現在<br>研究開発本部 マネジャー | “コーポレートR&Dの戦略・企画”（R&D中計策定、新事業創出に向けた施策の立案・推進）                    |

## ■ 小さな成功体験の積み重ね

博士課程で学んだことは数多く、一言では言い尽くせない。専門性が身に付くのは当然だが、武器として生かせるかどうかは自分次第。まず博士課程に進まなければ、ここまで深く自分自身と向き合うことはなかっただろう。また、研究活動、論文執筆などを通じて、小さな成功体験を積み重ねることができたことも大きな収穫だった。その体験のおかげで新しいことに挑戦する際の心理的ハードルが低くなり、その後の仕事や人生に大きな影響を与えている。

## ■ 先が読めない今だからこそ博士の価値は高い

かつては博士人材が「使いづらい、自分の専門以外のことには興味がない」と見なされていたが、現代は異なると考えている。それは、先の見えない現代において、正しい答えを探るより、正しい問いを立てられるかが重要で、まさに博士人材の強みが生きるところだからと考えている。そして、その価値が認められるのであれば、相応の対価が支払われるべき。私は博士人材の能力が最大限発揮され、正に評価される、そんな社会を築いていきたいと思う。

## ■ アカデミア、そして日本を強くしたい

先述のとおり、企業に就職した理由は外部からアカデミアを変えたいという想いがあったため。アカデミアでは、若手研究者が本来やりたい研究を十分に実施できていないのではないかと感じていた。また、予算獲得のための研究をせざるを得ない状況も見えてきた。私は、産業界が当たり前のようにアカデミアに資金や人材を還流させ、アカデミアが本来担うべきことに集中する、日本にとって必要な人材が大学から輩出され、産業界でも活躍する——そのようなサイクルを生み、結果日本の国力が上がっていくことが理想だと考えている。その実現に向け、私は大学の外部委員会や講演などにも積極的に関わるなど、自らが感じたアカデミアの課題を改善するため、日々奔走している。

## 旭化成株式会社への就職について

### ■ “人”で選んだ就職活動

学生時代はアカデミアを産業界から変えていきたいという想いがあったが、それを理解してくれる企業は多くなかった。そんな中、旭化成だけは「君、面白いことを考えてるね」と真剣に向き合ってくれた。私は価値観が合うと感じ、「この会社なら想いを実現できる」と感じたため、入社を決意。研究とはまったく畑違いの職場に配属されたことも、新しい領域を学ぶきっかけとなり自分の可能性を広げることにつながった。旭化成は、挑戦の機会を与えてくれる企業だと実感している。



## 採用情報へのアクセス

|          |                                                                                             |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://www.asahi-kasei-info.com/2026/">https://www.asahi-kasei-info.com/2026/</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://www.asahi-kasei.com/jp/">https://www.asahi-kasei.com/jp/</a>               |



## 博士人材採用のための取り組み

新卒技術系採用は、博士卒の社員が担当。秋入学など卒業時期、学業プランの多様化に配慮し、博士採用は通年で受付。博士卒社員のみが参加する博士学生向け説明会を開催。各大学で開催される外部委員会や博士向け講義にも博士卒社員が積極的に参加。



## 博士人材の処遇について

|             |                                                   |
|-------------|---------------------------------------------------|
| 初任給(2024年度) | 314,990円（諸手当別途支給）                                 |
| 昇給          | 年1回                                               |
| 賞与          | 年2回                                               |
| 休日休暇        | 年間の土曜日および日曜日のすべて ※ただし業務の都合により部署を定め、他の曜日に定める場合もあり。 |
| 勤務時間        | 実働7時間45分（一部フレックスタイム制度有）                           |



## アピールポイント

入社後、博士は研究開発系の業務につく場合が多数ですが、製造・生産技術・事業企画・人事などの領域でも活躍しています。これは、博士の能力を専門性に特化した人財として見るのみならず、研究室内の全体マネジメント、プロジェクトの立案・実施・論文執筆経験を通じて得られる課題発掘／解決力に優れた人財として当社が認識しているためです。また高い専門性を持ち、部門を問わず活躍が期待される人財を「高度専門職」として位置付けて育成する高度専門職制度をはじめ、社内に様々な博士のキャリアパスが実在するため、自身の希望に応じてキャリアを描くことができます。（インタビュー記事：<https://www.asahi-kasei.com/jp/asahikasei-brands/interview/trailblazers04.html>）

② 課題発見・解決能力などの汎用的な能力を生かして研究開発以外の業務で活躍されている例

## 博士 × 「共感力」



OBA Masaki  
大場 柁樹 博士(工学)

株式会社アカリク  
紹介事業本部 新卒紹介事業部  
キャリアアドバイザーチーム

✓ 「オートファジー抑制因子Rubiconの加齢に伴う翻訳後修飾変化の解析」の研究により、博士号を取得。

大学院では、「ショウジョウバエを用いた神経変性疾患の治療法」について研究。博士課程では、それまでの研究により得られた知見から、「老化とオートファジー」の関係性について研究を深める。研究者の道を志していたが、研究室の後輩から進路相談などを受けていく中で学生を支援することに関心を持ち、企業就職の道を考え始める。株式会社アカリクに入社後は現在にいたるまで新卒紹介事業部に所属し、キャリアアドバイザーとして主に大学院生を対象とした就職支援に従事。日々学生と接する中で、自身も博士課程を経験していたからこそ相手の立場や悩みを理解でき、寄り添える共感力があり、それが業務の中で生きていと語る。

## 博士人材がさらに活躍できる社会を目指して

株式会社アカリクに入社以来様々な学生の支援を行ってきたが、独り立ちして間もないころに担当した学生で、当初は就職活動に意欲的であったものの、途中から連絡が取れなくなった学生がいた。その学生に半年間という長い期間をかけて寄り添い伴走を続けたことで、最終的に内定を得られたというケースがこれまでの中で特に印象に残っている。博士課程での経験を生かし、研究活動の中で培った粘り強さで学生との接点を見つけて関係性を築けたこと、また、学生の悩みに対して自身の経験に基づき共感しながら接することができたことが、今回の結果に繋がったと感じた。

今後は、自身が博士課程と社会とを繋ぐ懸け橋となり、これまでの経験を学生等へ還元していきたいと考えていることから、先日も学生時代にお世話になった研究所で、現在の業務について講演する機会をいただくなど、キャリアアドバイザーとしてのみでなく一博士人材としても精力的に活動している。博士人材がさらに活躍できる社会を目指し、学生には自身が思う以上に社会は博士人材を必要としていること、企業にはより博士人材の持つ有用性を引き続き発信していきたい。

## 学生へのメッセージ

博士号を取得することはご自身の付加価値を上げることに繋がるかと思いますが、学位の取得を目指して、あきらめず研究に取り組んでもらいたいです。学位取得を目指す中で様々な経験をするようになると思いますが、博士課程での経験は専門性を高めるのみならず社会に出た時にも活用されるスキルを身につけることが出来るため、博士進学することはその後の進路にとっても無駄になることはないと感じています。

また、博士課程まで進むと、専門性を高めてきたことや年齢をもって「自分は求められていないのではないか」と不安に感じる人もいますが、そこを加味したとしても、例えば博士人材の持つ課題の発見力や理解力の高さ等を企業は実感・評価されてきていると思うので、現在、企業就職を検討していない方にも自分の可能性を狭めずに幅広い視野を持って進路を考えてもらいたいです。

## 経歴

## 役職

2020年～2023年  
日本学術振興会  
特別研究員(DC1)

2023年～現在  
新卒紹介事業部

## 具体的な仕事内容

研究課題「オートファジー抑制因子Rubiconが加齢に伴い増加するメカニズムの解明」

キャリアアドバイザーとして主に大学院生を対象とした就職支援に従事

## 博士課程への進学、そしてアカリクへの就職

### ■ 祖母の存在、研究所での研究経験をきっかけに博士課程の道へ

祖母がアルツハイマー型認知症を患ったことをきっかけに、その治療法の研究に関心を持っていたことから、大学入学時から大学院進学について検討していた。その後、在学中に実際の研究所で研究者に囲まれて研究活動を行う機会があり、周りの研究者に憧れを抱くとともに、運よく日本学術振興会特別研究員DCに採択されたこともあり、脳や老化の研究をしている大学院の博士課程への進学を決意した。

### ■ 博士課程での学び

博士課程はただ自身の研究だけをやっていれば良いというわけではなく、予算の確保や各種申請まで自ら行う必要があり、研究以外の面でも学びとなることが多かった。研究面においては、プロジェクトリーダーや指導教員に指示を仰ぐことも多い修士課程までとは異なり、自ら研究の課題を見つけていく必要があるところが博士と修士の違いだと感じている。また、学会等での他分野の研究者との交流や、研究を進める上での他の研究室との連携によりコミュニケーション能力も培われた。

### ■ 企業就職を目指したきっかけ

研究を進める中で、周りの優秀な研究者を目の当たりにし、研究者の道に進むことへの不安を感じ始めたことが、自身の視野を広げるきっかけとなった。研究者以外の道で社会に対してどういった貢献ができるのかを考え始め、博士課程在籍時に、後輩学生の進路相談等にモチベーション高く取り組めた経験から、学生支援の分野に興味を持ち始めた。

## 博士課程で学んだことがアカリクでの業務に生きている

現在の業務と博士課程での研究テーマは直接関係していないが、例えば相手の学生が何を求めているか、どういったアプローチが最適かといったことを考えるときに、これまでの研究活動の中で培った分析力が生かされている。また、大学院生を対象とした就職支援という業務の性質上、学生と接し信頼を得ていく過程において、自身も共通のバックグラウンドを持っているからこそ、相手の立場や悩みを理解し共感しながら接することができると感じる。

## 会社情報



### 採用情報へのアクセス

|          |                                                                                                                   |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://acaric.co.jp/career/recruit/requirements/">https://acaric.co.jp/career/recruit/requirements/</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://acaric.co.jp/career/">https://acaric.co.jp/career/</a>                                           |



### 博士人材採用のための取り組み

|                                            |                                                                                                     |
|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①博士後期課程学生のみを対象とした採用選考を実施<br>②研究インターンシップを実施 |                                                                                                     |
| 求人票URL                                     | <a href="https://hrmos.co/pages/acaric/jobs/0000016">https://hrmos.co/pages/acaric/jobs/0000016</a> |



### 博士人材の処遇について

|             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| 初任給(2025年度) | 月給 310,000円 ～ (固定残業手当：40時間分含む) |
| 昇給          | 年2回                            |
| 各種手当        | 博士手当(月3万)、住宅手当、インセンティブ等        |
| 休日休暇        | 125日                           |
| 勤務時間        | フレックスタイム制(コアタイム10:00～15:00)    |



### アピールポイント

弊社は、「大学院生が社会で活躍するためのインフラをつくりたい」という想いで、約20年にわたって大学院生に特化した就活・採用支援をしております。自社の新卒採用でも毎年、文理問わず様々な分野の博士課程出身の方を採用し、「抽象的なアイデアや事柄をデータから提言できる力」や「論理的思考力を活かして顧客の本質的な課題解決ができる力」(＝トランスファラブルスキル)を活かしながら組織の中心的存在として活躍中です。アカリクでは共に切磋琢磨し、今後の事業の中核を担っていただける仲間を募集しております！

② 課題発見・解決能力などの汎用的な能力を生かして研究開発以外の業務で活躍されている例

# 博士 × 「イノベーションにつながる着想力」



**KAIDA Yuriko**  
**海田 由里子** 博士(工学)

AGC株式会社  
技術本部先端基盤研究所 (所長)

✔ 多糖誘導体を用いた光学分割の研究により、博士号を取得。

修士時代の研究をさらに突き詰めたいと思い、そのまま博士課程に進学。修士課程と博士課程では大学を変ったが6年間同じ指導教官の下で、自分が取り組んだ技術が製品になり、産業の役に立って行くのを目の当たりして、企業に進むイメージが出来たことが、企業への就職を検討したきっかけだった。実際にAGC株式会社に就職して、在学中に学んだ基礎的な素養が企業でもかなり生かせていると感じており、物事の考え方、開発の進め方は博士で培った経験をベースに出来ていると語る。

研究開発だけではなく、スタートアップへの投資など様々なことに挑戦することが出来たが、それは博士課程で学んだことが基礎と語る。

## へこたれないでチャレンジし続ける

博士課程では様々なことが身に付く半面、それらを修得するためにはもちろん大変な経験をする事も多い。ただ、そこで鍛えられると社会に出てちょっとややそっとじゃへこたれなくなる。それどころか課題を設定する視点や、チャレンジングな課題解決に取り組む気力が備わっていることに気づく。

AGCでは研究開発部門、新規事業開発部署を経験した。また、アメリカの関連会社に赴任し、欧米のオープンイノベーションを統括した。そこでスタートアップ企業への投資提案も行った。今まで経験したことのない業務だったがチャレンジ精神で壁を乗り越えた。新たな技術獲得のためにアメリカの大学と共同研究を開始し、AGCの技術者を留学生として送り込んだ。企業のキャリア形成モデルの一つを形作ることが出来た。

0から1を生み出すイノベーション力、研究の世界だけではなくマネジメント力を企業の中で遺憾なく発揮できているのは、博士課程で学んだことが基礎となっているからだ。

## 学生へのメッセージ

修士までは教員に言われたことをこなすことが多いと思います。博士課程に進むとひたすら研究に没頭する日々の中で、自ら課題を設定する能力が付いてくるのだと思います。また、学部4年生や修士の方の研究を指導することも増え、マネジメント能力も段々と身に付いてくると思います。是非博士に進んだからには自分のやるべきことを徹底的に追及してほしいです。

また博士課程に在る間に会える貴重な人脈というのは確実にあります。私自身は教授の人脈を通じてノーベル賞受賞者と共著の論文を出すことができました。インパクトのある出会いというのは必ずあるはずなので、その出会いを生かしてケイバビリティを広げていく、という意識は持つておくと思います。そして、そこで得た人脈はきっと会社に入ってから何かしらで繋がっている一生モノの出会いだと思います。是非博士課程在学中に貴重な人脈の基礎を作ると、素敵なものになると思います。

## 経歴

| 役職                                | 具体的な仕事内容                                              |
|-----------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 2013年～<br>事業開拓室 課長                | 建築ガラス関連の新事業（ガラスのサイネージ）の立ち上げ                           |
| 2016年～<br>商品開発研究所 部長              | 新事業創出と推進にかかわる開発マネジメント                                 |
| 2017年～<br>米国関連会社 President        | 欧米のオープンイノベーション統括、技術獲得のためのスタートアップへの投資案策定や海外アカデミアとの連携推進 |
| 2023年～<br>執行役員、技術本部企画部長           | 全社技術戦略の企画・策定                                          |
| 2025年～現在<br>執行役員、<br>技術本部先端基盤研究所長 | 先端プロセスや共通基盤技術の開発戦略策定および開発マネジメント                       |

## ■ 博士課程での研究

学部4年生から6年間、同じ指導教官の下で、機能性高分子の研究を行ってきた。今では光学活性体のニーズがかなり高まってきており、大学での研究が実際に事業に繋がった経験もある。研究が社会実装される喜びを感じ、企業を目指すきっかけにもなった。

## ■ 博士での経験が生かされている

学生の時に分子の構造と機能を結びつけることに注力していたが、その分子設計能力が新たな素材を作ることの基礎として役立った。機能を考えることは、世の中の課題設定につながり、専門分野が生かされていることを感じた。また、後輩を指導したりスケジュールを管理したり研究室を運営した経験が、今でも部下の指導や部署のマネジメントを考える際に生きている。

さらに、研究開発だけでなく、アメリカの関連会社に赴任し現地オープンイノベーションを統括し、スタートアップ企業への投資案を策定した。その際に感じたのは、やはり海外だと博士号を持っているのが当たり前だということ。博士号を持っていたおかげで他社やVC等と同じ土俵に立つことが出来た。

## ■ 人脈を広げよう

例えば、学生時代に手伝った学会の運営をきっかけに大学の先生や他企業の編集員とのつながりができ、その後実際の仕事の場で様々な方との意見交換が可能となった。そういった学生時代の人脈を大事にしておくだけでなく、新しい物事に取り組む際にも後押ししてくれるものである。

## AGCという企業

### ■ 四分の一が博士課程の部門がある

AGCのR&D部門の博士号保有者は25%で、欧米のエクセレント企業と同等あるいはそれ以上である。幅広い経験を生かすことが出来るため、色々なことにチャレンジする方が多いと感じる。CEO、CTOも博士を持っている。会社として、博士号を持っている方は様々な経験をしてきているから色々なところで活躍してほしいという思いがある。だからキャリアパスも研究開発だけでなく経営や事業の部門に行くことが当たり前で、分野が違ってても力を発揮している。



### 採用情報へのアクセス

|          |                                                                                                               |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://www.agc.com/recruiting/">https://www.agc.com/recruiting/</a> （新卒採用）                          |
|          | <a href="https://www.agc.com/recruiting/careers/">https://www.agc.com/recruiting/careers/</a> （キャリア採用・第二新卒採用） |
| 企業トップページ | <a href="https://www.agc.com/">https://www.agc.com/</a>                                                       |



### 博士人材採用のための取り組み

- ・博士人財を対象としたセミナーに参加
- ・博士号取得者が訪学を実施
- ・学会で採用ブースを設置
- ・博士人財を対象とした選考フローの設定



### 博士人材の処遇について

|             |                                                                                         |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 初任給(2024年度) | 366,792円（博士了）                                                                           |
| 昇給          | 年1回                                                                                     |
| 賞与          | 年2回                                                                                     |
| 休日休暇        | 完全週休2日制、祝日、有給休暇、忌引き休暇、ライフサポート休暇など<br>年末年始は9連休・GWは8連休（2025年度）・夏は連続休暇を推奨。2025年度の年間休日数127日 |
| 勤務時間        | 基準労働時間7時間45分、フレックスタイム制（コアタイムなし）                                                         |



### アピールポイント

- ・長年の新卒博士採用と社会人博士の推奨により、研究所の25%が博士号を有しており、多くの博士人材が活躍する環境。
- ・国内外の著名な大学の研究室、企業や研究機関とのネットワークを有し、共同研究やプロジェクトを推進。また、毎年、MITやStanford等の海外大学へ戦略的に研究者を留学させ、新たな技術を獲得。
- ・特定専門領域において、世界的に著名な社内フェローの下で最先端技術を追求。応用研究や事業化にも携わり、多様なキャリアパスで活躍。

③ 入社後に、専門とは異なる分野で専門性を身に付けて活躍されている例

## 博士 × 「常に学ぶ」



KAMBE Mika  
神戸 美香 博士(薬学)

帝人株式会社  
コーポレート新事業本部 新事業管理部  
(役職：事業開発・契約グループ長)

✓ 含窒素天然物の全合成研究により、博士号を取得。

修士課程に進んだ当初は自分が研究者としてやっていけるのか不安だったが、研究の日々を過ごしていくうちに少しずつ自信を積んでいった。修士課程の学生の時、ある企業から医薬品の臨床開発職として内定をもらっていたが、やはり0から1を導き出せる研究者としてやっていきたい、創薬研究をやりたいとの思いから博士課程に進学。

就職してからは研究職にとどまらず、他企業との研究の連携をマネジメントしたり、他企業との提携に関する立案や実行にも携わったりと様々な場で活躍してきた。

### 学生でも、社会人でも、常に学ぶ姿勢を

学生時代は博士課程への進学に不安が付きまっていた。それでも目の前のことに真剣に取り組み、前進し続け、学び続け、新しいことに取り組む姿勢は絶やさなかった。その姿勢は就職後も変わっていない。入社後は希望通りの創薬の研究者として配属された。化合物を合成するという知識と技術はあったが、創薬をする上では分からないことが沢山ある中でも上司や先輩に積極的に相談したり、自らセミナーにも出席したりと受け身ではなく能動的に新しい物事に取り組んだ。創薬研究から離れた後も、異動先の事業開発部門でも積極的な姿勢で取り組み、結果として、他社との提携契約の締結に関して、2件のプレスリリースを出すことに繋がり、企業へ多大な貢献をもたらした。新しい壁にぶつかった時、「自分には出来ないかも」と決めつけずに、チャンスであると捉え、新しいことにチャレンジすることは何事においても大切で、必ずその後生きていく。博士課程で学んだことは多くあったが、その専門分野のみならず幅広い分野にも興味を持って積極的に学び、それを継続していくことが大切だと考える。

### 学生へのメッセージ

自分が博士課程の学生だった頃、“学生である“ということに大きな不安を感じていたことがありました。当時は女性が博士課程に進むことが少なく、有機合成という分野は特に女性が少なかったです。博士課程への進学に関する決意は固かったのですが、多くの壁にぶつかり、この選択が正しかったのか悩みました。必死に取り組んだ研究が思うように進まず、何も結果が出せずに終わるのかと焦りも感じましたし、希望する仕事に就けるのかという不確実性への不安もありました。周囲の友人が就職し、自分が学生であることについて不安のある方もいらっしゃると思いますが、いつか振り返ったときには『博士課程に進んでよかったな』と思える日が必ず来ると思います。実際に私も博士号を取得する際に学んだことが今に生かされていると感じますし、事業に取り組む際にも外部の研究者と対話をするときの自信につながっています。まずは目の前の研究に一生懸命取り組んでいただくといいと思います。

### 経歴

#### 具体的な仕事内容

| 役職                                                         |                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2003年4月<br>創薬化学研究部 研究員<br>(2023年10月分社化により<br>帝人ファーマ(株)に移籍) | 新薬候補化合物の設計と合成。新規創薬テーマの立案、推進、及び実行。                                                                       |
| 2011年4月<br>事業開発部 部員                                        | 医薬品の市場動向調査の実施と新薬候補品の探索。新薬候補品のライセンスのためのデュー・デリジェンスのリードや、ライセンス契約の起草、交渉及び実行。自社の新薬候補研究開発品の導出のための提携方針の立案及び実行。 |
| 2021年8月 帝人(株)出向<br>コーポレート事業開発部<br>部員                       | 次世代のコアビジネスとなり得る新規事業の立案、M&A検討、実行。再生医療領域の新規事業の立上げのための契約面からの支援。                                            |
| 2023年4月 新事業管理部<br>事業開発・契約グループ長                             | 新事業の立ち上げ、育成、及び価値最大化を行う事業本部における事業開発・契約面からの事業運営支援。                                                        |

## 内定を断って博士課程へ進学し、帝人へ

### ■ 開発職より研究職

学生時代の研究は、含窒素天然物の全合成研究。創薬の研究職に就きたいという気持ちがあり、天然物の全合成研究を行うことが、創薬研究に必要な知識と技術を修得するために役立つと考えていた。また、修士課程の時には、ある企業から臨床開発職としての内定をもらったが、“やはり創薬研究をやりたい”という気持ちから博士課程に進学し、研究職への道を進むことを決めた。アカデミアより企業を希望していたのはあらゆるリソースを使って新しいものを生み出すことに貢献したいと考えていたからである。

### ■ 博士号が自信につながる場面も

就職してからは希望通り、創薬の研究に取り組んでいた。その中で、アメリカの創薬支援企業と共同研究をするために、アメリカで1年ほど研究に従事した。そこで感じたのは、アメリカでは博士号を持っていることが、研究職に就くための基本条件とされているということ。実際メンバーの大半が博士号を持っていた。その中で、対等に自信を持って研究を進めることが出来たのは、やはり自分も研究に一生懸命取り組んで博士号を取得した、という自負だった。海外の研究職では博士号を持っていることが一般的であり、専門知識の証とされている

### ■ 研究職以外でも活躍を

先述のアメリカでの研究の後には、インドや中国の企業に創薬合成をアウトソーシングし、創薬プロセスを効率化しようとする取組があったので、その業務にも関与しつつ、自社の研究活動にも取り組んでいた。創薬のプロジェクトリーダーを任されるほどの経験を積んだ後には、自社のプロジェクトの価値最大化を目的に、他企業との提携を企画・推進・実行する事業開発業務やアライアンスマネジメントなど、研究から一步引いたところの業務にも取り組んだ。博士号を取得した専門分野だけではなく、事業開発といった異なる分野でも成果を出すことが出来ている。

## 帝人での活躍の裏には

### ■ 私にとって身近な企業

博士課程の学生の時に奨学金の支給を受けていたこともあり、帝人は身近な存在であった。当時から女性活躍の促進を掲げていた企業であり、興味を持った。実際、女性が少ない理系分野の研究職に不安もあったが、女性のキャリア支援も手厚く、私自身、海外勤務や2度の育休・産休を経験した。博士課程学生への経済支援、またキャリア支援と自分が活躍するには最適な企業であった。

## 会社情報



### 採用情報へのアクセス

|          |                                                                                               |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://www.teijin.co.jp/recruit/fresh/">https://www.teijin.co.jp/recruit/fresh/</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://www.teijin.co.jp/">https://www.teijin.co.jp/</a>                             |



### 博士人材採用のための取り組み

博士課程の学生にご参加いただけるインターンシップ(技術系職種)を開催することで、より業務イメージを明確にさせていただくことに注力しております。また、博士人材の方は、その研究実績を評価し、初任給額についても最も高く設定しています。



### 博士人材の処遇について

|                 |                                                                                       |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 初任給<br>(2024年度) | 327,460円                                                                              |
| 昇給              | 年1回(4月)                                                                               |
| 賞与              | 年2回(6月・12月)                                                                           |
| 休日休暇            | 年間休日121日、完全週休2日制(土・日)、祝日、年末年始、年次有給休暇(初年度15日、最高20日)、リフレッシュ休暇 他                         |
| 勤務時間            | 東京・大阪本社 9:00~17:45<br>各研究所 8:30~17:00<br>各事業所 8:00~16:30<br>フレックスタイム制適用部署あり、テレワーク制度あり |



### アピールポイント

帝人はマテリアル(高機能繊維・樹脂)やヘルスケア(医薬品・医療機器)など、幅広く事業領域を展開しているという特徴があります。また、近年では新事業領域の研究開発にも注力しており、専門分野に関わらず、幅広いキャリアが開かれているのも特徴です。特に、博士人材の方は研究内容を活かしつつ、あらゆる分野に視野を広げることで技術者としてのスキルアップが可能な環境です。

⑤ 人文社会の専門知識を身につけて活躍されている例

# 博士 × 「企画力」



KOHAGURA Kei  
古波藏 契 博士(現代アジア研究)

ランドブレイン株式会社  
地域政策・創生チーム

☑ 沖縄戦後史の研究により、博士号を取得。

博士課程では、出身の沖縄についての問題に関心があり、今の沖縄社会はどのように共同性を失ってきたのかを研究。日本学術振興会特別研究員-DC、日本学術振興会特別研究員-PD、その後産学官のセクター間を越えた研究者の活躍を目指した卓越研究員事業にも採用。JREC-IN Portalの募集を通じてランドブレイン株式会社を知り、卓越研究員事業のブリッジプロモーターを通じて取締役と出会う。様々な経験を通して、自身の強みの一つとして「企画力」があると気づき、社会的訴求力のある企画の立案に際して、歴史学や社会学の視点が応用できるようになったと語る。

## 自身のやりたいことに100%近づけるため主体的に事業を

ランドブレイン株式会社では、中央省庁や自治体から依頼を受け、調査や組織作り、補助金の執行管理などの業務を並行して行っている。業務内容は多岐にわたるが、疲弊する地域社会の再構築という点で共通している。今の業務と博士課程の研究内容は一見して無関係だが、水面下では繋がっている。研究では地域コミュニティの衰退過程を分析しているが、その再構築のための手法を実践を通じて学べるのが今の職場。研究の成果を仕事に生かしたり、仕事から得た知見を研究に取り入れたりといった好循環も生まれている。

その事例の一つが、墨田区京島の老舗銭湯「電気湯」と組んで行った関係人口づくりのプログラム。電気湯は若手フリーランスのコミュニティ拠点となっており、そのスキルを委託元である山形県白鷹町の地元事業者とマッチング。広報連携や商品開発等のコラボ企画につなげることで、土地-地方面でのリソース及びネットワークの共有を図っている。

また、社外では那覇市で「栄町共同書店」を設立。集落単位で自治的に運営されていた共同売店の伝統に学びつつ、「労働者協同組合」という新設法人格を活用。地域コミュニティを現代的条件のもとで再構築するための社会実験として県内外の注目を集めている。

## 学生へのメッセージ

自分のビジョンを可能な限り100%実現したいと思うなら、自分自身で働き方を組み立てていくという発想が必要だと思います。人文学・社会科学に限りませんが、やりたいことを一つの組織の中で全て叶えることは難しい。組織の目指すビジョンと研究者個人としてのビジョンを重ねるために丁寧に交渉を重ねつつ、活動内容によっては組織の外で行うことも考えないといけないと感じています。

私自身は、現在は会社の勤務を週4日とし、残りを研究や実践に充てています。今の所属先は非常に柔軟に対応してくれることもあり、自身のやりたいことと会社の仕事の両立ができています。仕事を通じて構築したネットワークを自身の活動に生かしたり、その逆もあったりと、研究と実践の相乗効果も生まれています。

人文社会系博士にとって、アカデミア以外のキャリアは想像しづらいですが、生活を維持しながら研究し続けるための選択肢はいくらでもあります。だからこそ、民間企業を視野に入れる場合は、単に「飯を食うための仕事」と考えるのもったいないです。そこで培える技能やネットワークを研究活動にも生かすことを意識すると良いと思います。すると仕事にも主体的に取り組めるようになり、研究から仕事に生かせる部分も自ずから増えてくるはずです。

## 経歴

### 具体的な仕事内容

| 役職             |                                                                  |
|----------------|------------------------------------------------------------------|
| 2022年～<br>主任   | 関係人口創出・拡大関連施策に係る事務局業務（内閣府）、小さな拠点・地域運営組織に関する調査検討支援等（同）等。          |
| 2023年～<br>主任   | 関係人口創出・拡大関連施策に係る事務局業務（内閣府）、特定地域づくり事業協同組合の設立・運営支援（山形県白鷹町）等。       |
| 2024年～現在<br>主任 | 関係人口創出・拡大関連施策に係る事務局業務（内閣府）、特定地域づくり事業協同組合の運営および関係人口創出・拡大支援（白鷹町）等。 |

## ■ 自身の興味関心を掘り下げたく大学院へ進学

出発点は地元・沖縄社会の一般的イメージと体感のずれ。メディアでは人情味溢れる共同体社会と言われるが、年々住民間のつながり意識は希薄化し、地域社会はバラバラになっていく傾向にあると感じていた。その原因を掘り上げるために大学院に進み、労働、経済、政治、文化と領域横断的に研究。修士課程で日本学術振興会特別研究員-DCに応募して採用され、アカデミアへの就職を念頭に博士課程に進学した。

## ■ キャリアの転換と働き方

博士課程在籍中に申請した日本学術振興会特別研究員-PDに採用されていたこともあり、アカデミアの中で生きていくことを前提として研究を続けていたが、今の社会に研究の成果を還元する筋道が見えなかった。ポストドクの間には、入門書の出版企画や動画配信等のアウトリーチに力を入れていたが、キャリアの転換点は、民間企業（広告関係）とのコラボ経験。半端仕事ではなく、コアになるコンセプトの検討から関わり、潜在的な社会ニーズを掴み、広く刺さるフレーズの考案に歴史的視座が応用できることを学んだ。人文学も応用次第で仕事に生かせること、逆に仕事を通じた学びが研究にフィードバックできることを知り、歴史社会学と掛け合わせる分野として地域政策に注目するようになった。

その転換点を経て、仕事選びで重視したのは、政策と現場の両方を見られること。今の職場では中央省庁の委託調査から自治体の伴走支援まで幅広く携わり、日々多くの学びを得ている。中途採用でも、早々に前線に立って経験を積むことができたことも大きい。なお会社の業務に収まらない活動については、自ら事業を立ち上げて行うなど、総体としては当初のビジョンに沿って進められている。

## ■ 人文学系で博士を目指している方へ

人文学の研究成果に対して金を払う企業は少ない。そこは理工系と違うところ。ただし、人文学を通じて培った能力が役立つ職場は決して大学だけではない。特別な施設・設備は必要なく、ある程度の時間さえあれば、どこでもできるのが人文学の強み。色んな現場を経験することで、研究にフィードバックされることも多々ある。

キャリア面では潰しが利かないと思われがちだが、人が不足しがちな地方をはじめ、研究を続けながら出来る仕事も少なくない。地域おこし協力隊や特定地域づくり事業組合などの仕組みを使ってみるのもおすすめ。博士課程に進学するなら、早めに大学の外で仕事をする機会を得ておくと、「どうやっても食べていくことはできる」と思えるようになり、焦らず自分の研究を続けやすいと思う。



## 採用情報へのアクセス

|          |                                                                                                                 |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://www.landbrains.co.jp/hp/recruit/new.html">https://www.landbrains.co.jp/hp/recruit/new.html</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://www.landbrains.co.jp/">https://www.landbrains.co.jp/</a>                                       |



## 博士人材の処遇について（2025年4月見込み）

|      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 初任給  | 30万円（試用期間後、諸手当含む）               |
| 給与改定 | 年1回（12月）                        |
| 賞与   | 年2回（6月/12月）                     |
| 休日休暇 | 週休2日制（土日祝）<br>※年2回会社行事による土曜出社あり |
| 勤務形態 | 専門型裁量労働制（出退社の時刻は自由）             |



## アピールポイント

地域づくりの現場から政策提案まで、オールラウンドに活躍できる会社です。中央省庁や全国の自治体・まちづくり団体と連携しているので、業務を通じてネットワークを広げることも可能。実務経験を積みながら学びを深めることも、学びの成果を業務に活かすこともできます。

多様なバックグラウンドを持つ先輩社員が在籍しています。まちづくりに関心のある方はもちろん、地域やコミュニティに関心のある方を広く歓迎します。

② 課題発見・解決能力などの汎用的な能力を生かして研究開発以外の業務で活躍されている例

## 博士 × 「わかりやすく伝える力」



SATAKE Kazuhiro  
佐竹 一紘 博士(応用生物学)

株式会社岩田商会  
先端材料事業部

✓ 遺伝子の違いによる抗がん剤への反応の違いの研究により、博士号を取得。

学生時代には、抗がん剤感受性に影響をおよぼす遺伝子変異を同定する研究に従事していた。満足するまで研究を続けたいと博士課程に進学し、一区切りと考えて就職活動を始めてみたものの、最初はうまくいわずに焦った時期もあったという。視野を広げてみて出会った岩田商会で営業として働く中で、博士課程で得た強みとを感じるのはコミュニケーション能力と語る。

これまで研究では経験してこなかった部分で苦しむこともあるようだが、「知識を広げられるなら研究にこだわる必要はない」と選んだ場所で新たな知識を得て、モノを売る今の仕事は楽しいとも語る。

### 研究の経験が研究ではないやり方で生きている

今の仕事は、学生時代にやっていた研究が直接的に関係することはほぼなく、ピペットを握って実際に実験をすることはなくなった。ただ、化学系商社なので、化学品の知識があると商品に対する理解は捗る。例えば実験で使っていた試薬のメーカー、酵素の役割などの周辺の知識から仕事が広がっていくので、博士課程で経験したことは生きている。

また、働き始めてわかった強みは、コミュニケーション能力。名刺に記載している「PhD」が会話の糸口になり、博士課程で何度も経験をしている自分の研究についての説明は、さらに会話を広げることもできる。必ず話題になるとは限らないものの、それ以外の話題でも初めて話を聞く人に説明する能力は博士の能力の1つだと思う。

### 学生へのメッセージ

博士まで進んだ方が進路を考える際に、博士号が大学や研究機関で研究を続けるための資格になっていることも影響しているのか、どうしても専門分野に関係していないと能力や経験を生かせないと考えてしまう傾向があるのではないかと感じています。しかし、実際に商社の営業という必ずしも専門分野に関係していない業種・職種で働いてみると、そんなことはありません。特に商社は様々な知識を持った人の集合体だからこそ、博士課程で培った経験が強みになると感じています。また、営業をしていると、学会での発表やほかの参加者との交流で得たコミュニケーション能力は、自分の強みだとも感じています。

ぜひ自分の専門分野以外にも広い視野を持って、自分のやりたいことができる場所を選んでほしいです。

### 経歴

| 役職       | 具体的な仕事内容                                                  |
|----------|-----------------------------------------------------------|
| 2017年～現在 | 先端材料事業部へ配属、営業職として顧客への営業販売を担当。商社の営業として新規商材の探索および客先提案を実施する。 |
|          | メーカーの協力のもと、ユーザーへ製品の提案、新製品への採用を目指している。                     |
|          |                                                           |
|          |                                                           |
|          |                                                           |

## ■ 満足するまで研究を続けるための博士課程進学

大学4年間で研究ができるのは、就職活動もあることを考えると非常に限られた時間。その中で、自分で手を動かして、実験や調べ物をしていくことを考えると、かなり物足りないと感じて、修士課程に進学した。ただ、修士課程も就職活動を考えると実質1年程度伸びただけで、自分の中で区切りがつけられず、さらに博士課程の3年があれば、ある程度自分の中で区切りがつけられると思った。

## ■ 博士課程で積んだ経験

師事した先生がいろんな経験を積ませてくださる方だったので、分子生物学会、農芸化学会、薬学会、がん学会と、国内の様々な学会で発表し、いろんな人と話す経験をした。

また、研究室の運営や、他の大学との共同研究、企業との共同開発の中では、自分の成果を出すためにも協力関係が必要だった。

今思えば、社会の縮図だったので、学生という身分で経験できて役に立っていることのひとつだと思っている。

## 岩田商会との出会い

博士課程2年で就職活動をする人が多いと思うが、自分は博士課程3年で始めた。最初は研究開発に特化した範囲で探していて、なかなか決まらず、時間だけが過ぎていく中で次第に焦りが募っていた。そこで、大学のキャリア支援センターに相談したり、広い業種をターゲットにしている就職サイトに登録したりした。就職サイトを見ると、「大卒以上」や「修士以上」という記載が多くあったが、博士も条件を満たしていることには変わりないと思っていた。そうして見つけた中の1つが、岩田商会だった。

博士号を持っている社長との面接で、「仮に卒業できなかったとしても、働きながら論文を書けばいい」と言っていただけて、今まで研究してきた分野とは異なるけれど、知識を広げられるなら研究にこだわる必要はないと思って、岩田商会を選んだ。

## 新しい経験を積む日々

博士課程で得た経験・能力はもちろん生きているが、商社の営業という違う分野では違う知識が必要になる。具体には、簿記や法律、そして化学系の商社なので危険物・毒物の知識も必要になる。新しいことを学ぶのは大変なこともあるが、先輩や上司に教わって勉強しながら仕事を進めている。研究とは全然違う世界なので苦労することはあるが、モノを売るという商社の営業という分野は非常に楽しい。



## 企業情報へのアクセス

企業トップページ <https://www.iwata-cc.jp/top.html>



## 博士人材採用のための取り組み

Web会社説明会において、営業職の仕事内容詳細を説明し、習得されたスキルが活用できるイメージを持っていただけるよう努めています。その他、OBと入社前に座談会を行い、仕事内容への理解を深めて頂いています。



## 博士人材の処遇について

|             |                         |
|-------------|-------------------------|
| 初任給(2024年度) | 217,000円（+固定残業代16,600円） |
| 昇給          | 年1回                     |
| 賞与          | 年2回 2024年度実績：合計6か月分     |
| 休日休暇        | 120日                    |
| 勤務時間        | 9時～18時（休憩1時間）           |



## アピールポイント

・第一に、創業122年の老舗商社としての地位を活用し、営業活動が出来ることが優位性と考えております。その他、アピールポイントは以下の通りです。

・風通しの良い社風により、学生時代に学んだ知識を利用して立案したアイデアを実践しやすい。

・化学品関連事業部と建材関連事業部の2分野があるため、様々な角度から顧客ニーズに対応することが出来る。

① 専門的知見を生かして、新規事業開発や収益向上等に  
つながる活躍をされている例

② 課題発見・解決能力などの汎用的な能力を生かして、  
研究開発以外の業務で活躍されている例

## 博士 × 「ブリッジコミュニケーション力」



SHIGENAGA Miyuki  
重永 美由希 博士(理学)

株式会社リバネス  
人材開発事業部  
サイエンスブリッジコミュニケーター®

✓ 植物のケミカルバイオロジーの研究により、博士号を取得。

### 個人の情熱が企業の発展に繋がっている

前提として、リバネスは「科学技術の発展と地球貢献を実現する」という理念に合致していることであれば、社員がやりたいことに挑戦できる環境がある。だからまずは自身の根底にあった「地元鹿児島にも研究者が働ける場を増やしたい」という想いをもとに、実際にプロジェクトに挑戦することが出来た。現地を訪問する中で県や地元の企業もまた人材流出の課題を抱えていることを発見し、共感を得たことで、地域で新しい事業に挑戦する研究者・経営者を支援する取組をスタートできた。基本的に課題感や熱意をもとに、やりたいことをどんどん仕掛けていこう、という会社のスタンスが自身には合っている。博士課程の中で培った課題を見つける力、複数の要素を組み合わせる力、周囲を巻き込む力を全て活用して自分のやりたいことに自由に挑戦している。

高校生の時に見たタンパク質をテーマにしたTV番組から、色や香りなどを持つ様々な成分を作り出す酵素や触媒反応に興味を持つ。その後、植物自身が生み出す成分が、植物の中でどのように働いているのかに興味を持ち、博士後期課程では植物内の現象を可視化するための指示薬の開発を進めていた。博士課程学生向けの講義で募集があった子供向け科学実験教室に参加したことをきっかけに、地域で研究に関わる取組を行っていたリバネスに興味を持ったと語る。入社後は、地元鹿児島への熱意をもとにプロジェクトを立ち上げ、アクセラレーションプログラムを開始し研究成果を社会実装することで地域での産業創生に挑戦するなど、自分のやりたいことに次々と挑戦している。

### 学生へのメッセージ

今の博士課程学生は周囲からの様々な期待を感じていると思いますが、それら全てに応えようとする必要はないと思います。しかし、その期待はみなさんが持つ可能性を示すものです。

まずは、自分を確立するために、研究に集中し、自身のテーマと向き合う時間を大切にしてください。一方で、博士課程を経た結果、参考にできるロールモデルが少なく、不安を感じることもあると思います。そんなときは、ラボの外に出て、違う分野や立場の人と交流してみてください。自分の可能性に気がつくための広い視野を獲得する良い機会になると思います。博士課程で身につけた力は様々な場面で生かせますし、それに気がつけば、目の前にたくさんの選択肢があることが理解出来ると思います。博士だからこそ、自分らしい、自分独自の道を歩んでいけるんだ、と自信を持ってもらいたいです。

### 経歴

#### 役職

#### 具体的な仕事内容

|                     |                                                                                                |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2016年～<br>地域開発事業部   | 地域エコシステム構築に向けたアクセラレーションプログラム等の運営。ベンチャー企業の伴走支援。地域次世代教育のための実験教室実施や研究発表会の企画運営。町工場調査等。             |
| 2021年～<br>研究開発事業部   | 若手研究者のための研究費の企画・運営。企業研究所と連携した新規研究テーマ創出に向けた提案・予備調査等。超異分野学会企画・運営。                                |
| 2022年～現在<br>人材開発事業部 | 博士課程学生向けトランスファラブルスキル研修。学生の活動を支援するリバネス奨学金の立ち上げ・運営。アントレプレナーシップに関わる人材育成の調査や研究者・企業経営者向けの情報発信・研修実施。 |
|                     | ※上記は一例であり、複数のプロジェクトに並行して取り組んでいます。                                                              |

## ■ これってどうやったら作れるの？から始まる研究

植物や手芸が好きだったことから、色素や繊維などの天然素材に興味を持ち始める。それらをすべて作り出しているのが、化学反応を起こすタンパク質＝酵素であると知り、そういうものを自分で作れたら全てを思いのままに作り出せるのでは、と思い化学に興味を持った。修士までは有機化学の研究室で触媒の研究をしていたが、博士に進むタイミングでより生物への興味が高まりケミカルバイオロジーの研究室に移った。

## ■ 研究者のまま地域に貢献できる方法を探る

研究は楽しかったが、自分がPIとして研究室を引っ張っていくタイプではないと考えていた。また、学部時代から地域創生にも関心があり、いつか取り組まねばと考えていた。子供向け科学実験教室のアシスタントを担当したことで交流があった研究者集団であるリバネスに、「九州で仕事がしたい」と思いの丈をぶつけると、ちょうど熊本で事業を始めるとのこと。専門、人間関係、そして運、色々なことが絡み合ってリバネスへの就職を決めた。

## 自分のやりたいことをやれる企業

## ■ 博士としての強みを生かす

社員の半数が博士号取得者であるリバネスは、博士号取得や留学など様々な状況に対応できるよう、通年採用のスタイルを取っている。博士号取得までに得た能力は、自分の専門以外の部分でも重宝される。専門性の高い顧客との対話や、様々な調査、課題の発見と解決策の提案など、博士課程では当たり前に行っていたことが自身の強みになっている。

## ■ 自分の想いから立ち上げ、仲間と進める

自身が先陣を切って進めたプログラムが「リバネス奨学金」の立ち上げだ。若手研究者の研究室外での活動を支援するため、資金援助と活動のアドバイスを行う取組だ。新しい取組を始めようという動きに対して、否定するのではなく、ともに取り組もうとする文化がリバネスにはある。自らの想いやアイデアを起点とし、周囲の社員を巻き込みながら、様々なプロジェクトに積極的に取り組んでいる。



## 採用情報へのアクセス

|          |                                                               |
|----------|---------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://lne.st/recruit/">https://lne.st/recruit/</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://lne.st/">https://lne.st/</a>                 |



## 博士人材採用のための取り組み

通年採用を行っています。自身の研究スケジュールに合わせていつでも面接を受けられます。また、リバネスについてより詳しく知りたい方向けに、博士人材が研究とビジネス両方で活躍できるリバネスの仕事の基本である「ブリッジコミュニケーション」について実践的に学べるインターンシッププログラムを6月から3ヶ月程度実施しています。また、サイエンス雑誌の記事制作や実験教室などにアシスタントとして挑戦する機会も提供可能です。リバネスが大切にしているコアコンピタンス「サイエンスとテクノロジーをわかりやすく伝える。」をどのように実践しているのかを体験していただきたいと思います。



## 博士人材の処遇について

|             |                                                                                                                                        |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 初任給(2024年度) | 基本給 240,000円<br>業務手当 45,000円 (6ヶ月間の試用期間終了後裁量労働制適用者に24時間分の時間外手当として支給)                                                                   |
| 昇給          | 年2回 (1月、7月)                                                                                                                            |
| 賞与          | 原則なし                                                                                                                                   |
| 休日休暇        | 休日：土曜日・祝日、その他会社が指定した休日<br>休暇：年次有給休暇 (入社6カ月後から付与)、その他休暇 (産前産後休業、生理休暇、育児休業、介護休業、忌引休暇 等)                                                  |
| 勤務時間        | ・月～金曜日 (9時30分～18時)、日曜日 (13時～18時)<br>・試用期間終了後／専門業務型裁量労働制 (月～金は8時間、日曜は5時間労働したものとみなします)<br>・休憩時間：11時30分～13時 (月～金)<br>※詳細は上記採用ページをご確認ください。 |



## 貴社のアピールポイント

リバネスは「科学技術の発展と地球貢献を実現する」というビジョンを掲げています。そしてその使命は「世界中の知識を育て、世界中の知識を集め、世界中の人々がわかりやすくその知識にアクセスし活用することができ、世界中で新しい知識を生み出すようにする」ことです。つまり、リバネスのミッションステートメントは「地球上で最も効果的な知識製造業を行う企業になる」ということになります。そのミッションを実現できるのは、研究者であり、アントレプレナーであり、「身近なふしぎに興味に変える」という好奇心を持つ人です。より良い未来をつくりだす「地球貢献型リーダー」として、ともに活躍できる仲間を募集しています。

① 専門的知見を生かして、新規事業開発や収益向上等につながる活躍をされている例

博士 × 「臆さず意見や提案が出来ること」



SUGIHARA Kazuki  
杉原 和樹 博士(工学)

古河電気工業株式会社  
研究開発本部 サステナブルテクノロジー研究所  
先端技術研究部

☑ 高温超電導薄膜のナノ組織制御により発現する特性のメカニズムに関する研究により、博士号を取得。

博士課程では、欧米や日本でもホットな超電導の分野で、自分で薄膜を作製できる環境にも恵まれ、自分で作製したものを自分で評価する研究に楽しさを感じていた。民間企業では作った製品が評価されるため、評価が直結していることを魅力に感じて民間へ就職。

自身の専門、間違いなく自身の方が知っていることについては、国内外問わず、相手に臆さずに意見や提案ができるのが強みであると語る。

自身の専門について自信を持って意見・提案を

入社から6年間、配属時から同一の部署でカーボンナノチューブや専門に近い超電導の研究開発に携わっている。それぞれの分野で自身の成果と呼べるものが1つ以上ある。

初年度から携わっているカーボンナノチューブのプロジェクトでは、部署配属のタイミングに無機材料と電気の知識を持った人材がおらず、電線開発に向けた電気特性の深い議論ができていなかった。そこで、自身が配属されて1週目に、これまでの手法では正確な議論が困難と判断し、測定手法から正しい議論に持って行くよう提案した。

また、超電導のプロジェクトでは自身の専門性を生かし、全体を俯瞰した議論をリードできている。

このように、どのような場や雰囲気、相手であっても、博士人材はある専門分野を極めた人材であり、その専門性で正しい議論のために臆さず提案ができ、専門外でも全体を俯瞰して意見できるのは博士人材だからこそであると感じている。

学生へのメッセージ

自身の周りで、修士課程修了後に民間企業に就職してから、やはり博士課程に進んで研究を続ければよかったと後悔している人をたくさん見てきました。博士課程に進学すると何かしらの研究を完遂しないと修了できないと思ってしまうますが、その研究について少しでも興味があるのであれば、進学した方が後悔しないと思います。

修士でも研究業務に携われる人はいますが、叶わない人もいます。博士号の有無で、研究業務に携われるかどうかの可能性も変わるし、博士号を持っていることで出来ることの幅も広がると思います。

分野によるかもしれませんが、特に無機材料の分野では、私も周りの博士人材の友人も、民間企業を含めて様々な機関に就職しており、就職について困っていることはなかった印象です。

自分の知識や特性を生かした活躍につながるので、博士課程進学にそこまでネガティブにならず、やらずに後悔しないように挑戦して欲しいです。

経歴

| 役職                | 具体的な仕事内容                          |
|-------------------|-----------------------------------|
| 2019年～<br>研究員     | 次世代軽量電線に向けたカーボンナノチューブの線材化に関する研究業務 |
| 2022年～現在<br>研究員   | Y系高温超電導線材の高特性化に関する研究業務            |
| 2024年～現在<br>客員准教授 | 名古屋大学工学研究科の客員准教授として研究、教育指導を兼務     |

## ■ 博士課程での学び

博士課程で最も身に付けた能力は、スケジュールの立て方。限りある時間の中で博士課程研究を行う必要があるが、学生時代は研究室のメンバーが多く、装置等を融通しないといけない状況で、いかに効率よく回せるかということを考えていた。全体を俯瞰し、効率よく計画を立てる能力は入社後にも役立っている。

## ■ 民間へ就職したきっかけと博士人材に対する会社の雰囲気

大学入学時は具体的な将来イメージはなかったが、実際に研究に携わり、博士課程への進学を考えるようになった。

そして、民間企業では製品を売るため、評価に直結することが魅力的に感じ、民間企業への就職を意識し始めた。

超電導という分野が自身の専門に完全にマッチしていて、国内の超電導線材を扱っている企業の中で、高温超電導を扱っている数少ない企業であったことと、修士課程の頃から古河電気工業株式会社から奨学金をいただいていた縁もあり、就職を決めた。

今の部署では多数の博士人材が仕事をしているが、皆科学技術全般に興味を持っていて、専門性とは異なる分野のニュースも知っている。会社全体の雰囲気でも「博士を持って知識もあるよね」と見られることが多く、頼られている存在。

## ■ 博士号取得して良かったと実感したこと

専門知識以外で博士号を取得して良かったと実感したことは、議論の場に立たせてもらえることである。名刺にDoctor of Engineeringと入れているが、日本国内ではあまり感じない一方、特にアメリカでは博士号を取得して良かったと思った経験がある。名刺に博士号の記載がされていることで、この人とは対等に話ができると相手側に思われ、議論がスタートできるという雰囲気をひしひしと感じた。

## ■ 現在の業務と今後のキャリアについて

現在は古河電気工業株式会社の社員でありながら、名古屋大学との共同研究のため名古屋大学に常駐しており、アカデミアと企業の両方に携わっている。

企業研究とアカデミアの研究は、環境的な違いが大きく民間の方が応用研究が進んでいるが、基礎的なメカニズム解明のための装置を会社に導入することは難しく、そこは大学が担うという役割分担がある。

現在は自身の専門に近い分野で戦力として業務をしているが、自分の幅を広げるために、今後は別分野の部署でも働きたい。



## 採用情報へのアクセス

|          |                                                                                                     |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://www.furukawa.co.jp/saiyou/recruit/">https://www.furukawa.co.jp/saiyou/recruit/</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://www.furukawa.co.jp/">https://www.furukawa.co.jp/</a>                               |



## 博士人材採用のための取り組み

ワークショップの開催、職場見学会、長期インターンシップ体験、博士に特化した採用説明会の開催



## 博士人材の処遇について（2025年4月見込み）

|      |                           |
|------|---------------------------|
| 初任給  | （月給）314,000円（修士了275,600円） |
| 給与改定 | 年1回                       |
| 賞与   | 年2回（6月、12月）               |
| 休日休暇 | 休日：年間121日<br>休暇：20日～25日   |
| 勤務時間 | フレックスタイム制                 |



## アピールポイント

当社は「つづく」をつくり、世界を明るくする。を目指し、さまざまな社会課題に向き合っています。

新しい技術開発に向けて、ぜひ博士後期課程の皆さんに仲間にジョイン頂きたいと思います。

変化の激しい時代であるからこそ、変えられることがたくさんありますので、是非ご応募をお待ちしております。

## ⑤ 人文社会の専門知識を身につけて活躍されている例

## 博士 × 「自身の能力を組み合わせた独自性」



TAKAMURA Ai  
高村 愛 博士(人文科学)

株式会社資生堂

✔ Fat talkの生起背景の研究により、博士号を取得。

株式会社資生堂で働きながら、博士号（人文社会）を取得。文系修了者だが、文系理系にとらわれない柔軟性を評価され、自身の専門に近い心理学の研究から、会社の戦略に関連した市場調査やデジタルトランスフォーメーション(DX)など様々な業務に従事。

数が少ない「博士×文系」で一般企業就職をしているケースのため、今でも数々の大学院生向けの就活イベントに招待されており、学生に将来の見通しを持ってもらうことの一助になればと積極的に登壇している。

## —— 自身が持つスキルを組み合わせている様々な業務で活躍 ——

株式会社資生堂での業務では、大きく3つの部署を異動しながら、並行して様々な仕事に携わってきた。入社時はベースメイクの製品開発の部署に配属され、専門の心理学とは関係が深くない分野だったため、必要な知識を身につけながら仕事した。その後、統計の知識を活かしてデジタルトランスフォーメーション(DX)の部署を経験。現在は、専門の心理学を生かせる市場調査の業務に従事。経営戦略・研究戦略を立案するにあたり、「お客さまが今どういう意識を持っているのか」「市場が今どうなっているのか」等について分析している。現在はその他にも、化粧品に関連した心理学の基礎研究にも従事している。このように文系の修了生だが、文系理系にとらわれない働き方をしており、会社ではその柔軟性を評価されていると感じている。

1つのスキルだけを見ると自分よりレベルが高い人はたくさんいるが、それぞれを組み合わせたときにオリジナリティが出る。これからも、博士課程で学んだことに、さらなる独自性を加えて活躍できればと思う。

## —— 学生へのメッセージ ——

大学院生活では、将来のことを不安に思うときもしばしばあると思います。案外何とでもなるので、希望を持って欲しいです。アカデミアに限定せず、企業への道も考えることで、選択肢は広がります。学位取得に関しても、いろいろと方法があります。修士課程からストレートに学位をとるやり方もありますし、企業に就職してから、社会人ドクターとして学位を取得するやり方もあります。自分の場合は、修士課程からそのまま博士課程に進み、実験や調査などは在学中に終わらせ、休学を使って働きながら論文を書きました。

博士課程に進んでからの企業就職は、入社時の年齢を気にされる方もいるかと思いますが、あまり気にする必要はありません。研究を通して学んだことは業務に生かされるので、決して無駄にはなりません。自身の持つ強みやスキルは何かを考える良い機会にもなりますので、広い視野を持って挑戦してください。

## 経歴

## (年度は任意) 役職

## 具体的な仕事内容

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 2018年 | ベースメイクアップの開発を担当しながら、市場調査も担当。              |
| 2020年 | 研究所内のデジタルトランスフォーメーションを担当する部署に。市場調査の担当は継続。 |
| 2022年 | 全社戦略・研究戦略策定のための市場調査を担当。                   |
| 2024年 | 市場調査を担当しながら、化粧品に関連した心理学の基礎研究にも従事。         |

## ■ 働きながら学位を取得するに至ったきっかけ

学部4年生の時に一般企業への就職を考えたが、やりたいことがなかなか見つからなかった。卒論の研究を始めると、自分がやりたいことは研究なのではないかと思うようになり、将来的に研究職に就きたいと思って大学院へ行くことにした。

文系の博士課程学生は3年で学位取得ができないことも多く自身も早い段階で3年間では厳しいと感じていた。そこで、D2の早い段階で就活を開始し、働きながら博士号を取るために研究の計画を練った。

資生堂に就職をしたきっかけは、参加した就活イベントで資生堂が登壇していたこと。社風やミッションが自身がやりたいことにマッチしていたため入社を決めた。採用面接の際に「働きながら博士を取りたい」と相談して修士卒として入社し、働きながら博士号を取得した。

## ■ 博士課程の学びと現在の業務への関連について

博士課程での学びが業務に生きる方向性は、大きく2つある。1つは自分の専門を生かした業務。心理学の基礎研究だけでなく、市場調査の業務でも心理学の知識や統計分析スキルを活用している。社内の人からも、専門分野に関して頼ってもらえていることを感じている。2つ目は一般的な仕事を進めるうえで必要な、ビジネススキル。計画立案、プロジェクトを上手く進めること、必要な人を研究に巻き込む力、プレゼンテーションスキルなど、大学院で学んだことはどれもそのまま仕事で使えるスキルになる。様々な面で今も業務に生きている。

## ■ 文系で博士を目指している方へ

文系は理系のように3年間で博士の学位を取得できない分野もあることから、不安を感じる人もいるのではないかと思う。進路に迷ったとき、少しでも研究が楽しいと思うのであれば、修士や博士に進むことをお勧めする。学ぶことはたくさんあり、就職してもそれを大いに生かせる。研究が上手く進むか、論文がアクセプトされるか、将来の先の見通しがあまり立たない…などたくさん不安があるかと思うが、今できることをしっかりこなせば大丈夫なので、頑張ってください。就職活動では、自身は博士課程学生向けの就活イベントに参加した。通常の合同説明会とは逆の、学生がブースを持ち、そこに興味を持った企業の方が来て話すという形式のイベントだった。私に興味を持ってくれた企業が来てくれるのでよい議論ができたし、自身の強みは何なのかのヒントを得ることもできて良い経験になった。もし将来の見通しに不安があるなら、博士課程学生向けのイベントに参加して視野を広げることをお勧めする。



## 採用情報へのアクセス

|          |                                                                                               |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://recruit.shiseido.com/index.html">https://recruit.shiseido.com/index.html</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://corp.shiseido.com/jp/">https://corp.shiseido.com/jp/</a>                     |



## 博士人材採用のための取り組み

|                        |                                                          |
|------------------------|----------------------------------------------------------|
| ジョブ型研究インターンシップ推進協議会ページ | 現在、博士人材に特化したものはございませんが、毎年多くの方にご応募いただいております。かつ採用実績がございます。 |
|------------------------|----------------------------------------------------------|



## 博士人材の処遇について（2025年4月見込み）

|      |                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------|
| 初任給  | 月額 293,450円（修士了：月額 261,310円）                                         |
| 給与改定 | 年1回（4月）                                                              |
| 賞与   | 年3回（6月、12月、翌4月）                                                      |
| 休日休暇 | 休日：129日（2025年度）<br>休暇：有給休暇、慶弔時などの特別休暇、勤続年数に応じて取得できるリフレッシュ休暇、連続休暇制度、他 |
| 勤務時間 | フレックスタイム制                                                            |



## アピールポイント

資生堂は、1872年の創業から150年を超える歴史の中で、その時代ごとの革新を積み重ねて今日のGlobal Beauty Companyへと成長してまいりました。現在は約120の国と地域で事業を展開しており、代表的な化粧品事業に加え、レストラン事業、教育・保育事業等を通じ、企業使命である「BEAUTY INNOVATIONS FOR A BETTER WORLD」を実現していきます。私達は、IFSCCが開催する化粧品技術に関する世界最大の研究発表会において、圧倒的に多い受賞回数（2024年時点で合計32回）を誇り、比類がない高い技術力を保有していると自負しております。ArtとScienceの融合から、世の中になくユニークな価値を創出し続けており、高い専門性を生かしてご活躍いただけるフィールドが沢山ございます。

①専門的知見を生かして、新規事業開発や収益向上等につながる活躍をされている例

## 博士 × 「実行力」



TAKEUCHI Tsukasa

竹内 司 博士(理学)

分析計測事業部 ダイアグノスティクス統括部  
臨床・微生物検査ビジネスユニット  
プロダクトマネージャー

✓血管造影蛍光イメージングプローブの生体内挙動に関する研究により、博士号を取得。

企業の中核となる経営戦略の新規事業立ち上げやマーケティングプロモーションなど様々な部署を経験。徐々に専門領域での認知度が上がり、専門書の執筆や講演を依頼されるようになる。

そこで、海外での講演を依頼された際に自身のみMr.と呼ばれているのが推薦してくださっている教授や研究者に申し訳ないという気持ちから、社会人ドクターとして博士号取得を決意。

島津製作所で働きながら驚異の3年で学位取得を果たし、現在はプロダクトマネージャーとして活躍。自身の置かれた環境を最大限生かし、積極的に自分からアクションを起こすことが大事と語る。

### 学生へのメッセージ

修士から博士にそのまま進むストレートドクターと企業等で働いてから学位を取る社会人ドクターとあり、それぞれメリット・デメリットがあります。博士課程を中退して就職することも人生の選択肢として正しい選択の1つです。自身が何に向いているのか、逆に向いていないのか判断し、自分の専門領域の能力はとがらせ、自身でアクションを起こすことをぜひ忘れずに行ってください。

### 経歴

| 役職            | 具体的な仕事内容                 |
|---------------|--------------------------|
| 2008年～<br>副主任 | 新規事業の企画/推進(生体イメージング)     |
| 2012年～<br>主任  | グローバルマーケティングプラン策定/推進(医薬) |
| 2019年～<br>課長  | ライフサイエンス関連事業の戦略企画策定      |
| 2023年～<br>課長  | 臨床検査事業の戦略企画、製品開発         |

②汎用的な能力を生かして研究開発以外の業務で活躍されている例

## 博士 × 「視野の広さ」



ASANO Shun

浅野 駿 博士(理学)

基盤技術研究所先端分析ユニット  
分析計測グループ主任

✓量子ビームの複合利用による超伝導体の物性に関する研究により、博士号を取得。

博士課程修了後新卒で入社。入社後5年目という若手でありながら、専門である物性物理学の知識を生かしながら、博士課程時代に培った、背景にある課題解決能力や分野の隔たりなく取り入れられる汎用的思考力を生かし、営業と連携した顧客開拓という研究とは異なる業務でも活躍。

島津製作所では新卒でも博士人材を採用しているだけでなく、社会人ドクターも含め、多くの博士人材が活躍している中、イノベーション創出手法や経営的な観点も含め、自身の強み、カラーを出すべく、学位を取得したら終わりではなく、その次を見据えて日々努力していると語る。

### 学生へのメッセージ

博士課程の間だからできることを大切にし、自分はここまでしかやらないと壁を作るのではなく、周りの人に良い影響をもたらすスキルを培うのは重要です。専門性は企業に入社しても絶対に生かすことができるので、理工系・人文系問わず、ご自身で興味をもっていること、専門性をきわめて欲しいと思います。

### 経歴

| 役職            | 具体的な仕事内容                            |
|---------------|-------------------------------------|
| 2021年～<br>副主任 | 蛍光X線分析による化学状態分析システムのニーズ調査、電池向けアプリ開発 |
| 2022年～<br>副主任 | GX実現に向けた触媒化学分野の分析ニーズ調査と新テーマ探索       |
| 2023年～<br>主任  | 光計測によるGX向け新規ガス分析の要素技術開発             |

## 島津製作所との出会い

### 【浅野】

社会見学もかねて参加した博士人材を対象とするジョブフェアにて、偶然島津製作所のユニット長から声をかけられたのが出会い。

元々はアカデミアを目指していたが、ユニット長の人柄と意見交換から学ぶことが多く、入社を決意。

## 社会人ドクターとしての過ごし方

### 【竹内】

上司の理解が得られ、島津製作所の社員として大学院に入学し、また、共同研究先の研究所の研究員、そして博士課程学生と3つの身分を持って、フレックスタイムで働きながら学位を取得。大学院は社会人ドクターであっても厳しいもので、週末も単位取得のため必死に勉強した。

## 自分の強みの理解とポジショニングが大事

### 【竹内】

学会や普段の研究者とのかかわり方において、アカデミアの世界では著名な先生に若手研究者がアクセスするのは、難しいこともある。社会人ドクターの場合、企業の人間として扱われるため、先方も親切に対応してくれるのが強み。

学会で積極的に質問し、その場で名刺交換して連絡先を入手して、メールでもコミュニケーションをとっている。

## 博士に行って良かったこと

### 【竹内】

留学生を多く受け入れる研究室だったため、ドクターコースの人のコミュニケーションツールは英語だった。

社会人からの学び直しは何か目的がないとモチベーションの維持が困難。博士課程に進学し、優秀な学生と対話するために強制的に勉強できたのは、社会人ドクターに行って良かったと思う。

### 【浅野】

博士まで経験したからこそ、入社してから自身の専門分野を応用できた。

また、大型施設で研究していたバックグラウンドから、分野隔たりなくコミュニケーションができています。

営業と連携して顧客ニーズの調査をする際、お客様も博士号を持っている中、背景を把握した上でお客様の抱えている課題の深くまで理解し、同じ専門家として議論できるのは博士の学位を取って良かった点と思う。

## 会社情報



### 採用情報へのアクセス

|               |                                                                                                                                             |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ         | <a href="https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/recruit/graduate/index.html">https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/recruit/graduate/index.html</a> |
| 企業トップページ      | <a href="https://www.shimadzu.co.jp/">https://www.shimadzu.co.jp/</a>                                                                       |
| ほぼ2分でわかる島津製作所 | <a href="https://youtu.be/Ar6f0qcyqbg?si=iNV6lOMuV2lXlw61">https://youtu.be/Ar6f0qcyqbg?si=iNV6lOMuV2lXlw61</a>                             |



### 博士人材の処遇について

|             |                             |
|-------------|-----------------------------|
| 初任給(2024年度) | 博士了308,930円                 |
| 昇給          | 年1回(4月)                     |
| 賞与          | 年2回(6月・12月)                 |
| 休日休暇        | 完全週休二日(土日)、祝祭日、GW、夏季・年末年始など |
| 勤務時間        | 一部部門を除きフレックスタイム制            |



### アピールポイント

島津製作所における博士人材は、基礎研究だけでなく製品開発でも活躍頂いております。

工学だけでなく、医学、薬学、理学、農学など、様々な分野の博士が分析計測機器や医用機器、産業機器等のハードウェア開発、ソフトウェア開発、アプリケーション開発および基礎研究や要素開発を行っております。

当社で活躍している博士は、自ら課題を設定し、それを主体的に解決していけるという、博士として24時間×365日×3年間鍛え続けられた基礎能力を十分に発揮できる能力をもった方です。

アカデミックに偏ることなくインダストリアルな志向もバランスよく備えた方になっており、そんな皆様が存分に活躍いただけるフィールドを準備してお待ちしております。

① 専門的知見を生かして、新規事業開発や収益向上等につながる活躍をされている例

## 博士 × 「ゴールイメージを持つ」



TACHIBANA Yuki  
立花 裕樹 博士(理学)

塩野義製薬株式会社  
事業開発部長

✓ 不凍糖タンパク質の構造活性相関の研究により、  
博士号を取得。

塩野義製薬株式会社入社以降、薬の“タネ”を探索するMedicinal Chemistとして活躍。新型コロナウイルス感染症の治療薬「エンシトレルビル」の開発に立ち上げから関わり、通常5年かかると言われる薬の候補品の探索を半年で終え、エンシトレルビルのもととなる化合物を創出した。現在は事業開発部長として自身で直接研究は行っていないが、研究よりもスパンが短いという違いがあるものの、仮説を立てて証明するためのアクションを取るという仕事の本質は変わらないと語る。

## — これまでの蓄積の上にゴールイメージをすることで新薬開発 —

エンシトレルビルを短期間で開発できた要因はいくつかある。

一つ目はSHIONOGIには感染症に強いというバックグラウンドがあり、北海道大学との共同研究もあって、化合物を合成して評価できる環境が整っていたこと。

二つ目は、他のウイルスでプロテアーゼ創薬研究の蓄積があったこと。

三つ目は、自分自身がずっとタンパク質の構造情報を用いた創薬のノウハウを蓄積してきたこと。

最後にこれに加えて、薬のタネを見つけてからどのように薬に持っていくか、どのようなデータを集め、活用するか、最初にゴールイメージを描くことができたことも大きかったと思う。それまで目の目を見なかった創薬基礎研究の蓄積と数多くの失敗があったからこそ、コロナ禍でのスピード創薬に対応できたのだと思う。

## — 学生へのメッセージ —

みなさんには、学生時代から“逆算思考を持って研究を進めること”をお勧めしたいです。

私は入社2年目で創薬の部署に移った際、上司から「ゴールイメージを持て」と言われたことがきっかけで、常に頭の中で作りたい薬のゴールイメージを持ち、逆算してどのような行動をとればよいか考えることが習慣化されました。さらに、エンシトレルビルをいかに早く開発するかという経験の中で、自分の頭の中にあるゴールイメージを可視化し、一日単位の工程まで落としこみ、周りの人にも共有することで、不可能と思われることでも可能にすることができたと学びました。目標を可視化することは企業に限らずどこでも重要です。博士課程学生の皆さんも、ゴールイメージをもって目標を立てながら自分の研究を進めてみてください。

## 経歴

| 役職                        | 具体的な仕事内容                                                                                                               |
|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2004年～<br>製薬研究部 研究員       | 製薬研究部にて、プロセス化学研究（薬の製造法を構築する研究）に従事。                                                                                     |
| 2005年～<br>創薬研究所 研究員       | 創薬研究所に異動。創薬化学研究、特に初期の探索研究やタンパク質の立体構造を活用した創薬手法であるStructure-Based Drug Design (SBDD)などの創薬技術基盤構築に従事。                      |
| 2017年～<br>SBDDグループ長（管理職）  | SBDDを専門としたグループのグループ長に就任。主に初期の探索研究を、疾患横断的に担当。                                                                           |
| 2020年～<br>創薬化学1グループ長（管理職） | HIVやSARS-CoV-2など、抗ウイルス薬の創薬化学を専門としたグループのグループ長に就任。探索研究から、臨床試験入りまでを一貫通で担当。                                                |
| ～現在<br>事業開発部長（管理職）        | SHIONOGIの戦略に合致する、薬になり得る化合物を持っている、あるいは作ることができる技術やノウハウを持つ外部の企業やアカデミアを見つけ、化合物を導入、共同研究、あるいは買収などを仕掛けることで自分たちだけではできない事業をつくる。 |

## ■ 試行錯誤の楽しさに惹かれ大学院へ進学

学部時代に入った糖鎖化学の研究室で、自分で実験の結果を見て次にどう条件を変えるか考え、上手くいったりいかなかったりと、試行錯誤することに面白みを感じた。

学部時代の大学には修士課程しかなかったため、当初から博士課程に進学することを考えて、より研究環境の整った他大学の大学院に進学した。

## ■ 自分が作ったもので世の中を変えるために企業へ

自分の作ったもので世の中を変えたい、人助けしたいという気持ちが強く、大学院に進学する時点で博士課程修了後の企業への就職を心に決めた。

塩野義製薬には、大学院の指導教授が共同研究をしていた縁で入社を決めた。

## ■ 探索活動が好きなのが強み

自分で調べるのが好きで、論文を読んで面白そうなことを試すといった、自分で考えてアクションを取るということが好き。

とにかく研究が好きで、ゲーム感覚で粘り強く試行錯誤を繰り返すことができるのが強みというか特長だと思う。この自分の特長には、大学4年生で研究室に入ってから初めて気が付いた。

## ■ 自らの研究にプライドを持つ

基盤研究を担当していたため、成果物がなかなか出ずに評価はされなかったが、新しい技術を試すことは好きで、一番難しい将来の基盤をつくる部分をやっているというプライドをもって研究していた。

## ■ SHIONOGIには自由に成長できる風土がある

SHIONOGIには自由に学び、研究し、成長できる風土があり、制度も整っているので、主体的に成長していきたい人におすすめできる会社である。また、感染症創薬に強みがあり、世界一といえる薬を作っている会社なので、感染症に興味がある方はもちろんだが、我々がQOL（Quality of Life）疾患と呼んでいる、新しい疾患領域にも共同研究などのパートナーリングを活用するなどして積極的にチャレンジしており、世の中にはないものを自分で作り上げたい人にもお勧めしたい。



## 採用情報へのアクセス

|          |                                                                                                                     |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://www.i-note.jp/shionogi/recruiting/top.html">https://www.i-note.jp/shionogi/recruiting/top.html</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://www.shionogi.com/jp/ja/">https://www.shionogi.com/jp/ja/</a>                                       |



## 博士人材採用のための取り組み

- ①博士後期課程学生のみを対象とした採用選考を実施
- ②研究インターンシップを実施

|                        |                                                                   |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| ジョブ方研究インターンシップ推進協議会ページ | <a href="https://coopj-intern.com/">https://coopj-intern.com/</a> |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------|



## 博士人材の処遇について（2025年4月見込み）

|      |                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------|
| 初任給  | 310,000円（修士了280,000円）                                           |
| 給与改定 | 年1回                                                             |
| 賞与   | 年2回                                                             |
| 休日休暇 | 休日：日曜日、土曜日、祝日、年末年始など。<br>休暇：年次有給休暇、慶弔休暇、ボランティア活動休暇、骨髄移植ドナー休暇など。 |
| 勤務時間 | フレックスタイム制                                                       |



## アピールポイント

- ①SHIONOGI WAY「他者を惹きつける強みを持ち、貪欲に知識とスキルを高めつつ、積極的に挑戦しやり遂げる人」
- ②自社創薬比率66%（2024年6月時点）
- ③自己投資支援制度（年間25万円まで従業員の学び・挑戦を会社がサポート）

博士人材のように高い専門性を持ち、成長し続けながら、社会課題を解決したい方にお勧めの環境です。

② 課題発見・解決能力などの汎用的な能力を生かして、研究開発以外の業務で活躍されている例

## 博士 × 「違う世界に同じ関心で挑戦」



BABA Shotaro  
馬場 翔太郎 博士(工学)

大和証券株式会社  
グローバル・マーケット戦略企画部データサイエンス課

✓ミクロな理論（量子力学）とマクロな理論（熱力学）をつなぐ量子熱力学の研究により、博士号を取得。

物理工学から理論物理へと研究の中心は変わりつつも、学部から博士課程修了まで物理を探究し、次のステージに選んだのは証券会社への就職。世の中の根本原理を探究する理論物理の研究とは反対の金融市場という資本主義中心の世界で、複雑な現象を相対的にシンプルなモデルで考えるという共通点を生かし、入社2年目にして米国景気後退モデルを開発。報告レポートについてアジアの財務省から勉強会依頼が来る等、会社への貢献にとどまらない活躍には、知的好奇心や数理的能力に加え、博士課程で培った力が生かされていると語る。

### その後の仕事と成果自体の両方が広がったモデル開発

2023年7月の米国雇用統計を受けて市場参加者の間で景気後退懸念が広がり、株価や金利が大きく下落。それに連動して日経平均株価も10%以上下落した。

証券会社は、投資家のためにサービスを提供することが重要な業務の一つであるため、この米国の景気後退確率について、社内のエコノミストやトレーダーと協力し、定量的な統計モデルを開発するプロジェクトを実施した。

その結果、社長が出席する重要な会議で報告されただけでなく、外部にレポートとして報告し、十数社の大手機関投資家を招いた勉強会を開催したり、発行体であるアジアの財務省に対して講演を行ったりなど、多くのアウトプットの機会に恵まれた。

このプロジェクトをきっかけに、社内で様々な部署とつながりができて、その後の仕事の広がりにつながったという意味でも、当初想定していたより広い対象に成果がリーチしたという意味でも印象深い。

### 学生へのメッセージ

博士課程で培った課題を発見・設定し、プロジェクトを進め、成果を整理して報告・発表する能力は、学生の頃に思った以上に業務を進めるうえで役立っており、想像以上に人材としての価値を高めてくれています。

また、産業界にも知的好奇心を刺激しつつ、専門性を軸にさらなる成長を目指せる場所が存在します。例えば、私が日々対峙する金融市場には未だ多くの分析すべき課題があります。そして金融工学、数理ファイナンス、統計・機械学習など、多くの関連研究が盛んに行われています。そのため私の業務ではそれらにキャッチアップしつつ実際の課題に生かしたり、研究を行ったりする必要があります。

ぜひ、博士課程の研究を通じて能力を身に付けたうえで、皆さんの知的好奇心を満たしつつ成長できるキャリアを選択していただけたらと思います。

### 経歴

| 役職                     | 具体的な仕事内容                                                                                 |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2023年～<br>アソシエイトディレクター | エクイティ部データサイエンス課において、株式取引戦略に関する分析・モデル作成や、商品開発等。                                           |
| 2024年～現在<br>同上         | グローバル・マーケット戦略企画部にデータサイエンス課が移管するとともに、対象資産を債券や為替、派生商品に拡大しつつ、金融市場・経済分析やリテール顧客分析等も業務内容に加わった。 |
|                        |                                                                                          |
|                        |                                                                                          |

## ■ 理論物理への興味で博士課程へ

自然現象の根本原理である物理に興味があり、物理工学科に進学した。そこで「面白い」と思うことを深めていく中で、修士課程に進学するタイミングで、理論物理の研究室を選択し、量子熱力学及び量子多体制御、統計物理の研究に取り組んだ。

博士課程に進学することを意識したのは、修士課程に進学したタイミングで、2年間だと研究期間として短いと感じたためだった。

## ■ 同じ関心で次の興味「金融市場」に挑む

博士課程で物理への探求心が一段落したことを感じ、これまで取り組んできたものとは正反対の世界に挑戦してみたい、という気持ちが出てきた。その中で、複雑な現象を相対的にシンプルな数学的モデルで理解を深めることにも、同じく取り組みたいと考えていた。これらを両立するものとして、金融市場に関わる仕事が選択肢になっていった。説明会に参加する等して、自分で考えて動くことができ、日々新しい挑戦もできそうな証券会社に就職したいと考えて、今の仕事に就いた。

## 博士人材として働いてみて

### ■ 自分のアイデアで仕事を進める日々

就職活動をしている際に期待していた通り、フットワークが軽く、自分でアイデアを出して働くことができていると感じている。また、定量的な分析を行う課題に対して、こういったモデルを使うべきか、どうしたら対応できるかを考える際には、数学的・統計的能力はもちろん、博士課程で培った課題を発見・設定し、プロジェクトを進め、成果を整理して報告・発表する一連の能力を生かせていると感じ、仕事に取り組むうえでアドバンテージがあると思っている。

そして、博士号を持っている実績を尊重してもらえているからこそ、1年目からやりがいのある仕事を任せてもらえているとも感じている。また、海外機関と対話する際には、博士号がこちらへの信頼感を高めるステータスであると感じた。

### ■ 職場の魅力

大きな会社だからこそ、株式や債券など様々なプロジェクトにかかわる部署・発行体や機関投資家など、様々な相手を対象とした部署が存在している。それぞれと協力してプロジェクトを進める中に、多くの課題があり、日々新たな学びがあることを魅力と感じている。

また、すぐに収益に繋がるものではないけれども、内に閉じず、交流や成果をアウトプットする機会が奨励されていることも魅力である。



## 採用情報へのアクセス

|          |                                                                                   |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://www.daiwa-grp-recruit.jp/">https://www.daiwa-grp-recruit.jp/</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://www.daiwa-grp.jp/">https://www.daiwa-grp.jp/</a>                 |



## 博士人材採用のための取り組み

高度な数理能力やITスキルなど、極めて高い専門性を活かせる特定の部門でキャリアを歩んでいただく**総合職エキスパート・コース**を設定

入社後は、高い専門性を継続的に発揮してもらえるよう、年齢ではなく、職務・役割・実績で報酬を決定する人事制度であり、若い時期から高い報酬を得ることも可能

|          |                                            |
|----------|--------------------------------------------|
| 【デジタルIT】 | :データサイエンティスト、デジタルエンジニアなどデジタル技術でビジネスを変革する業務 |
| 【高度金融】   | :クオantz・デリバティブ業務など、高度な金融知識を必要とする業務         |



## 博士人材の処遇について（2025年4月見込み）

|       |                                                                                                                              |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 初任給   | 【総合コース・部門別コース】<br>総合職・（広域）エリア総合職：大学卒 30万円/月<br>【部門別コース】<br>総合職エキスパート・コース：50万円～/月※<br>※専門性・希少性のある高いスキルがある場合、さらに高い水準となることもあります |
| 給与改定  | 年1回                                                                                                                          |
| 賞与    | 年2回（6月・12月）                                                                                                                  |
| 休日・休暇 | 休日：完全週休2日（土・日曜日）、祝日、年末年始<br>休暇：夏季休暇（連続7日間～10日間）、有休休暇 等                                                                       |
| 勤務時間  | 8:40～17:10                                                                                                                   |



## アピールポイント

当社はグループ経営方針として“お客様の資産価値最大化”を掲げております。皆様の研究活動を通じて培った、一つのことに全てをかけて集中し、深掘りし続ける経験が十分に生かせると思います。また、博士人材が配属される部署では、皆様の知的好奇心や能力をさらに引き出してくれる上司や同僚が多くおり、博士人材が伸び伸びと働き、活躍しています。

① 専門的知見を生かして、新規事業開発や収益向上等につながる活躍をされている例

# 博士 × 「挑戦力」 × 「人脈」 × 「コミュニケーション能力」



FURUKAWA Hiroshi  
古川 浩 博士(工学)

NEC、九州大学教授を経て現職

PicoCELA株式会社 代表取締役社長

✔ 無線通信の研究により、博士号を取得。

民間企業に在職中に社会人ドクターとして飛び級で博士号を取得。その後、大学へ異動、主査として約10名の博士課程修了者の指導に当たった。2008年にPicoCELA株式会社（九州大学発ベンチャー）を起業し、2018年まで大学教員と兼務しながら事業を進める。博士号があるからすぐに即戦力になるかというそうでないケースもあるが、論文の書き方や論理的思考力をしっかり学ぶように自身は指導してきたし、他の博士人材を見ても感じる。その人材をどう生かしていくのかは企業側の責任と語る。



OMORI Yoichi  
大森 洋一 博士(工学)

PicoCELA株式会社 プリンシパルエンジニア

✔ ソフトウェア工学の研究により、博士号を取得。

修士課程修了直後に博士課程に進学し、博士号取得後にアカデミアで研究も行った。博士人材になると会社の人から「なんでもできる人」と思われがちであるが、自分でも仕事をして楽しいと思えること、新しいことを学んで成長できると思えることが重要と語る。

PicoCELA株式会社では自分の専門であるソフトウェア工学を生かした業務にも携わるが、大学発ベンチャーということもあり、専門以外の業務にも携わることがある。周りの博士人材と同様に、専門外のことも、博士課程における多くのチャレンジや多様な経験を生かして活躍している。

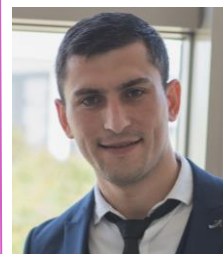


TOGASHI Hiroaki  
富樫 宏謙 博士(情報学)

PicoCELA株式会社 シニアエンジニア

✔ 高度交通情報システム(ITS)に関する研究により、博士を取得。

学部卒業後、一度民間企業に就職し、数年働いた後に大学院への進学を決意。修士課程の2年間だけでは時間が短くあまり研究に深くまで携われないと考え、5年一貫制の博士課程へ進んだ。何事も試してみないとどんな未来が開けるのかかわからないので、「失敗しても良いので新しいことに挑戦する」というのが自身の強みと思う。博士課程で身に付けた課題発見・解決能力は現在でも業務を遂行する上で、役に立っていると語る。



Kevin Bylykbashi 博士(工学)

PicoCELA株式会社 シニアエンジニア

✔ 次世代無線ネットワークの研究により、博士号を取得。

アルバニア出身。故郷はテクノロジーを“使う”環境だが、テクノロジーの発展の最前線として貢献したいと思い、日本に留学を決意。日本の大学で博士号を取得し、その後日本で一年間ポストドクターの経験も積む。

アカデミアでは研究に携わったり、共同研究・学会発表などでピアレビューできたりするのは良いが、物作りやお客様とのやりとりなど産業界ではないとできないこともある。PicoCELA株式会社では、アカデミアに近い研究でも、産業界としての良さも持ち合わせていると感じて、日々精進している。

## ■ 博士号取得して良かったと実感したこと

【古川】アカデミアでは博士号を持っていないと採用されないの、アカデミアも含め将来のキャリアの選択肢が広げるという観点で、博士号を持っていてよかった。

【大森】博士まで進むのと、修士で修了するのでは、圧倒的に人脈の広げ方が異なる。その専門分野のトレンドがどのような方向に進むのか、新しい知見を得るのに役立っており、仕事をする上で非常に重要なことだと思う。

【富樫】学部では決められた研究をするが、博士課程ではテーマそのものも自分で考えるので課題発見・解決能力を身に付けることができた。この能力は企業での業務においても生かされていると思う。

【Kevin】博士課程に進んだからこそ身に付けた、論理的思考力、コミュニケーション能力、諦めずに挑戦する能力は、アカデミアでも生かされた能力だが、企業で働くうえでも大事な力となっている。

## ■ 学生へのメッセージ

【古川】博士号を取るには、修士課程修了直後に博士課程へ進むやり方もある、民間企業に行き、社会人ドクターとして取得するやり方もあります。一度社会に出てから学び直すことに対しても大学は門戸を開いているので、広い視点で自分のキャリアを考えてください。

【大森】博士号を取ることが目的ではありません。難しく考えないで自分がやりたいことが見つければ、博士課程の途中でやめることも人生の戦略としてはありだと思います。自分がやりたい方に進んでみてください。

【富樫】「博士に進んだから研究者にならないといけない」というような固定観念に囚われるのではなく、視野を広げた上で自分が何をやりたいのかを分析して、キャリアを是非考えてみてください。

【Kevin】博士課程で学んだことは、アカデミアに行く場合でも産業界に進む場合でも役に立つし、博士課程での経験により可能性が広がると思います。ためらわずに博士課程に進んで欲しいです。



## 採用情報へのアクセス

|          |                                                                           |
|----------|---------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://picocela.com/recruit/">https://picocela.com/recruit/</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://picocela.com/">https://picocela.com/</a>                 |



## 現在募集中のポジション（2025年3月現在）

|      |                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 職種   | 組み込みソフトウェアエンジニア（WiFi ドライバー）                                                                                                                                                                                                                   |
| 業務内容 | <p>自社ワイヤレス製品のWiFiドライバー（ath10k/11k/12k）開発・移植・強化を担当。<br/>wpa_supplicant・hostapdの最適化やカーネル開発・デバッグを行い、信頼性とパフォーマンスを向上を目指します。<br/>バックポートの移植、バグ修正、ドライバー機能の強化にも携わっていただきます。</p> <p>Linux（カーネル/デバイスドライバー）とC言語での開発経験、OpenWrt、無線プロトコル、テスト自動化の知識があれば尚可。</p> |
| 年収   | 7,000,000～9,000,000円                                                                                                                                                                                                                          |
| 賞与   | 年1回（業績による）                                                                                                                                                                                                                                    |
| 休日休暇 | <p>年間休日：123日<br/>休暇：土日祝、有給休暇、年末年始休暇など</p>                                                                                                                                                                                                     |
| 勤務時間 | フレックスタイム制（コアタイム10：00～16：00）                                                                                                                                                                                                                   |



## アピールポイント

PicoCELAは、九州大学教員だった現代表が在職中に創業したベンチャー企業で、2025年2月現在、博士人材4名が在籍する技術志向の会社です。多数の発明によって支えられた無線メッシュネットワーク技術を核に、モバイル通信分野で数々のブレイクスルーを成し遂げています。大学・研究機関との連携も積極的に行っています。博士課程で培った専門性を生かしつつ、新しいことへ自ら主体的に挑戦する快活な人材を求めています。2025年1月米国Nasdaqへ上場。

② 課題発見・解決能力などの汎用的な能力を生かして、研究開発以外の業務で活躍されている例

## 博士 × 「新たな挑戦」 × 「継続力」



FURUKAWA Yoshio  
古川 喜朗 博士(理学)

株式会社大阪ソーダ シニアフェロー  
サンヨーファイン株式会社 代表取締役社長

✓ 含窒素複素環化合物の合成研究により、博士号を取得。

## 誰もやっていないことに挑戦してみる

博士後期課程時代の研究テーマは、誰もやっていないような新しい研究テーマを目標にして達成していくことを心掛けていた。そのマインドは「どういうテーマで研究しよう」とか「どういう事業を展開していこう」とか、物事を進める際の考え方として、これまでの長い道のりの中、何度も自分を助けてくれたものである。

大阪ソーダに就職してすぐ、会社がファインケミカル事業を新たに立ち上げようとした際にも積極的に参加した。その結果、事業の確立を成し遂げ、今の大阪ソーダの主力事業のひとつとすることが出来た。

就職して留学した際も、研究室の日本人第一号として、イリノイ大学アーバナシャンペン校Jacobsen研究室で研究することを決めた。Jacobsen教授をはじめ、同研究室の仲間とのつながりは、今でも大きな財産である。

新しいことに挑戦する苦難の先には、想像以上の結果が待っているはず。

博士号を取るまでには苦労したこともあり、大阪ソーダ入社後も全力で頑張ろうという強い想いを持っていた。だからこそ、自身の知見を広めて必ず企業に還元することを約束し、イリノイ大学アーバナシャンペン校に博士研究員として留学することを決め、貴重な経験を積んだと語る。

それだけでなく、留学先の研究室で開発された新規合成法のライセンスを取得し、それが今の事業の基盤技術の一つにもなっているとも話す。

博士課程から続けてきた「新しいことに挑戦すること」が礎となって、活躍されている。

## 学生へのメッセージ

企業での研究開発とアカデミアでの研究開発は、やはり目的が違います。博士課程は、チャレンジングな研究を自分で考えながら出来る、非常に良い機会です。私も博士課程の際は、自分で研究テーマを考えることが求められ、それが現在、事業の内容を考える際に非常に生かされています。博士号を取得するのに苦労したので、会社でも頑張ることが出来ました。是非今の内から新しい技術、新しい分野を開拓することを考えながら、研究に取り組んでほしい。博士課程は研究に没頭出来る、またと無い良い機会だと思います。

また、留学は自分の知見や人脈を広げるうえ、で非常に有益です。私自身は社会人になって留学して、仕事に繋げることが出来ました。自分自身のキャリアアップにつなげることを考えるのなら、学生時代でも是非海外に留学してほしい。さらに、博士号取得は、研究室に採用してもらう際にも役立ちました。

それらの経験が、私の業務や研究、さらには事業開発にも生かされてきました。

経歴

| 役職    | 具体的な仕事内容                                               |
|-------|--------------------------------------------------------|
| 1987年 | 大阪曹達（株）（現（株）大阪ソーダ）に入社、研究所に配属                           |
| 1992年 | イリノイ大学アーバナシャンペン校博士研究員（1992-93年）、ハーバード大学博士研究員（1993-94年） |
| 2008年 | 取締役研究開発本部長 兼 研究所長                                      |
| 2009年 | 取締役ファインケミカル事業部長 兼 サンヨーファイン（株）常務取締役研究開発本部長              |
| 2019年 | サンヨーファイン（株）代表取締役社長                                     |

## ■ 就職に至るまで

学部時代に研究に携わるうちに、就職するよりも博士課程で研究を続けたいと思い、進学を決めた。博士修了時には、大学に残るか企業に行くか半々の気持ちだったが、大学での研究ではなく企業で就職することとした。大手企業では歯車の一つになり、自分のやりたいことが出来ないと感じ、中堅化学メーカーである大阪ソーダに就職を決めた。

## ■ 入社5年目でアメリカ留学

海外留学したいと社長に申し出たが、事業化につながる研究でないと許可しないと言われた。そこで自分で事業化につながる研究で、今後も発展が期待できる若い教授を論文などで調べ、会社に提案。2つ年下で日本人が留学していない、Jacobsen教授の研究室へ留学することとなった。携わった研究は大阪ソーダにとって非常に有益なものだったが、アメリカの他企業にライセンスされてしまい、実施権を取得することができなかった。不運もあったが、その後Jacobsen教授の元で新たに開発された合成法の実施権を、最後には得ることができ、大阪ソーダの事業開発につなげ、社長との約束を果たすことができた。

## 代表取締役社長として見る博士後期課程

## ■ 会社に入ってから学ぶこともたくさんある

まず持論として、アカデミアと違い企業は利益の追求が求められる。博士課程の頃もチャレンジングな研究を求められるが、やはり目的が異なるものである。

博士後期課程の頃に学んだことは数えきれないほどあるが、就職してから学ぶことは山のようにある。例えば管理職についてからの経営マネジメントなどは、実際にその立場に立って初めて勉強したこともある。博士課程の間に全てを身に付けるのは到底不可能なので、研究に没頭することが大事であるし、そうすることで自然とキャリアパスが開けてくると思う。

## ■ 新しいことへの挑戦を“継続する”こと

新しいことへ挑戦することが大切であるが、それを粘り強く継続することでより成果を出せるものと考えている。博士課程での研究も就職してから業務に取り組む姿勢も然り、である。

特に私が携わっている医薬品の開発は成果が出るまで、非常に長い時間を要し、ドロップアウトしていくケースもたくさんある。3万個の化合物の中から1個薬になるか、ならないかぐらい。ただ、続けないと結果は分からない。事業として成立つまで、浮き沈みの繰り返しだった。失敗しても新しいことへの挑戦をあきらめないことが大切だ。



## 採用情報へのアクセス

|          |                                                                                                     |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://sub.osaka-soda.co.jp/ja/recruit/">https://sub.osaka-soda.co.jp/ja/recruit/</a>     |
| 企業トップページ | <a href="https://www.osaka-soda.co.jp/ja/index.html">https://www.osaka-soda.co.jp/ja/index.html</a> |



## 博士人材採用のための取り組み

夏季職場体験イベントを実施しています。総合研究開発センター、研究センターと併設の尼崎工場両方を見学いただき、先輩社員との交流を通じて当社の理解を深めていただけます。希望者に対し、選考の中で博士課程修了の先輩社員への質問会を設けています。



## 博士人材の処遇について

|             |                                                      |
|-------------|------------------------------------------------------|
| 初任給(2024年度) | 306,000円 ※ライフプラン支援金一律30,800円を含む                      |
| 昇給          | 年1回(4月)                                              |
| 賞与          | 年2回(6月、12月)                                          |
| 休日休暇        | 年間124日(2024年度実績) ※有給休暇付与日数: 初年度15日(最大20日)            |
| 勤務時間        | 本社・支社 08:50~17:30 研究センター・工場 08:00~16:40 フレックスタイム制度あり |



## アピールポイント

企業理念である「化学を通じて社会が求める新たな価値を提供する企業グループ」を目指して、機能化学品およびヘルスケア事業の拡大をはじめ、バイオや環境などの新たな事業領域への展開を図り、高付加価値製品を中心とした強い事業構造の構築を進めています。

企画～開発～製造～デリバリーとビジネス全体を見渡し、関わることが中堅化学メーカーならではの面白さがあります。

研究開発職・技術開発職/生産技術職/営業・技術営業/と研究を活かしやすいよう、初期配属ごとにコース別採用を行っています。

①専門的知見を生かして、新規事業開発や収益向上等につながる活躍をされている例

②課題発見・解決能力などの汎用的な知識を生かして研究開発以外の業務で活躍されている例

④博士課程における国際的な経験を生かしてグローバルに活躍されている例

## 博士 × 「経営戦略」



MIZUTA Kazuhiro  
水田 和裕 博士(工学), MBA

AeroEdge株式会社  
取締役兼執行役員COO/CTO

✓航空宇宙材料の3Dプリンター技術に関する研究により、博士号を取得。

イノベーション創出をライフワークに掲げる。新たな航空ビジネスを立ち上げようとしていた、AeroEdge株式会社に2017年から参画。欧米がリードするグローバルな航空宇宙産業において国際競争力をつけるには、技術と戦略が不可欠であり、元々真理の追求が好きな性格もあり、企業の取締役でありながらも社会人ドクターとして博士号（工学）を取得。グローバルに通用する先行技術の研究開発（R&D）の推進と経営の両輪を担う。事業化を出口としたR&D戦略を立案し実践している。そこではR&Dを担う博士人財のマインドセットやキャリア観を理解しつつ組織体制を構築し、最大限彼らが活躍できる環境整備やプロジェクトのマネジメントを行っている。

### 博士人材としての専門性を生かした経営を実践

グローバルな航空宇宙産業において、欧米企業とともに成長していくため、CTO（最高技術責任者）として高い専門性の獲得とそれを生かした経営戦略の立案と実行が必要である。AeroEdge株式会社に参画してから会社の成長戦略を企画していく中で、圧倒的な市場規模と技術を誇る欧米の一流研究機関やメーカと話をする際に、その多くが博士号を保有しており、CTOとして彼らと対等に議論し、先端分野での知見獲得や経営戦略を立てる上でも必要性を痛感し、社会人ドクターとして再び大学機関に身を置くことを決めた。

博士号取得により、その分野の専門家として対等な立場で、海外との研究開発や交渉を進められるようになり、博士号のベネフィットを感じている。例えば、エンジン部品の品質を議論する際に、生産技術、機械的特性、結晶構造までを網羅することで、科学的工学的に、より説得力ある説明を顧客にできるようになった。高い専門性をもってイノベーションを創出し、会社のミッションを達成していきたいと思う。

### 学生へのメッセージ

キャリアについて柔軟に考え、視野を広げてみてほしい。

博士課程における研究活動を通して習得した思考のプロセス、仕事の進め方、ものごとをまとめ文章や絵にして説明するコミュニケーション力は価値があり、汎用性があります。ご自身の専門分野での研究職のみが機会であると考えする必要もありません。もちろん、当該分野での研究開発や事業開発にご関心があればそちらの道での活躍機会は大いにあると思いますが、他にも色々と目を向けられてはいかがでしょうか。ビジネス知識経験が前提ではありますが、欧米ではある分野で研究していた方が、ベンチャーキャピタル等のその分野の投資側で専門性を生かして活躍するケースも、多々あります。社会実装を見越した場合には、金融や時に政府との関係は不可欠であり、そうした組織でご自身の専門性や背景知識は強い武器となり、重宝されます。グローバル市場も含めて広くみると、自分の価値が実はすごく高いと感じることができると思います。キャリアについても長期志向が重要です。

### 経歴

#### 役職

#### 具体的な仕事内容

|                                |                                                                                              |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2008年 トヨタ自動車株式会社               | 車両軽量化戦略立案、LEXUS用軽量材料、燃料電池車MIRAI向け軽量材料開発を担当し、MIRAI構造部品の量産化に成功。                                |
| 2015年 株式会社ZMP<br>新規事業推進室マネージャー | 自動運転タクシー事業における戦略企画および開発チームのマネジメントを担当。                                                        |
| 2017年 AeroEdge株式会社<br>執行役員CTO  | TiAlタービンブレードの量産工程の立上                                                                         |
| 2019年 取締役兼執行役員<br>CTO          | トヨタ生産方式等改善活動の推進とスマートファクトリー企画、積層造形や合金開発・画像診断AI等その他全ての先行技術開発を主導。成長戦略の立案と実行、国内外での研究開発パートナーシップ構築 |
| 2020年 取締役兼執行役員<br>COO/CTO      | 上記に加え、人財育成とグローバル成長戦略の立案と実行                                                                   |

## ■ 海外ビジネス

航空宇宙産業においては、欧米メーカが機体やエンジンといった主要製品の企画・設計・製造を行い、その優位性は簡単には変わらない。「サプライヤー」として欧米企業とビジネスを行うことが前提になる。そこではいかに技術提案ができるかが鍵。海外の開発担当者や研究機関の研究員は博士号を有しており、互いに知見を共有し、ものごとを具体的に進めていくためには博士号が必要だった。

## ■ 社会人ドクターとして

社会人ドクターとして良かったことは、学生の立場を活用し、学会や企業の研究所や工場へのアクセス権を得る機会が広がったこと。例えば、指導教授の紹介でイギリスの大学研究室を訪問出来たこと等、社会人ドクターの価値を感じた。博士号取得後も客員研究員として大学に在籍しており、国際学会で発表するなど成果を発信して出来る。

## 自分の強み

### ■ 探索活動が好きなのが強み

機械工学で修士課程を修了し、米国でMOT（技術経営学修士）を、英国でMBA（経営学修士）も修了した。そこからAeroEdgeで技術開発を担う組織をゼロから立上げるにあたり、自ら博士号を取得した。ビジネスにおける必要性を感じていたことに加えて、「純粋に知りたい」という想い、「真理の追究」がモチベーションであり、論文執筆を楽しむことが出来た。Ph.DのPhは哲学を意味するが、科学技術やイノベーションの探求、哲学を生涯続けていきたいと思う。

### ■ 産業界だからこそのアプローチ

ライフワークはイノベーションの創出であり、研究開発も企業人として取り組んでいるため、大学等の研究者による純粋な学術とはアプローチが異なるかもしれない。しかし、産業界のプロフェッショナルとして現場を知る自分が、研究成果の産業界における実際の使われ方を見越して、研究開発に取り組むことに価値があると考えている。

### ■ 博士人材の活用できる風土がある

現在、CTO直轄組織として技術戦略室という組織を設けている。10名ほどのメンバーのうち4名が博士人財だが、意図的に博士人財を集めたのではなく、専門家として技術をもとに、ビジョンや経営戦略を具現化できる人財を集めた結果である。世界と戦うためにも博士人財の必要性を感じているため、社会人博士を目指す社員には学費のサポートや柔軟な働き方を可能とする人事制度も整えている。



## 採用情報へのアクセス

|          |                                                                               |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://aeroedge.co.jp/recruit/">https://aeroedge.co.jp/recruit/</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://aeroedge.co.jp/">https://aeroedge.co.jp/</a>                 |

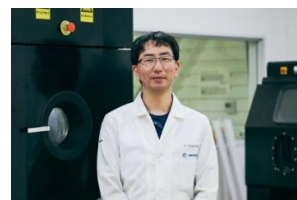


## 博士人材採用のための取り組み

- ① 定期的な大学訪問による研究室、キャリアセンターとの連携強化
- ② 大学合同企業説明会、個別企業説明会の実施
- ③ インターンシップの受け入れ
- ④ 産学共同研究の推進



## 社会人博士取得の制度を活用した社員の事例紹介



2019年～2023年にかけて、社会人として博士後期課程に入学。普段は会社で種々の開発を担いながら、AeroEdgeが手掛ける軽量耐熱合金の金属積層技術、いわゆる3Dプリンターの研究を推進。

全く知見のないところから、海外に出向いて海外の開発者とも交流し視野を拡げ、知見を論文にまとめました。研究成果は会社の知的財産として当該分野のベースになりました。多忙ではありましたが、新しいことへの挑戦ができ、成長を感じることができました。



## アピールポイント

◎AeroEdgeはまだまだ若い組織でありながら、世界に通用する技術開発を数多く推進しています。個々人の専門性に加え、組織としてのパフォーマンスを最大化するためのR&Dマネジメント、プロジェクトマネジメントには細心の注意を払い、常にチームメンバーで議論し前に進めていく風土があります。

◎成果は時に学会発表、学会誌等への寄稿、投稿論文などにし、社外への発信も積極的に行っています。技術を核にした新規事業開発を通じ、皆が成長を実感できるフィールドがAeroEdgeです。

①専門的知見を生かして、新規事業開発や収益向上等につながる活躍をされている例

## 博士 × 「オープンマインド」



MIWA Yoshihiro

三輪 明寛

博士(工学)

研究開発グループ研究員

✓ 電力変換器に使用される磁性部品の損失解析の研究により、博士号を取得

研究から製品化までのプロセスを実践を通じて経験したいという思いを持ち、大学進学時から、民間企業への就職を希望。留学を希望する中で、担当教員と話し合い、博士課程へ進学。

企業における研究の中でも、社内外の関係者と協働する際に重要なオープンマインドな姿勢は、博士時代の研究経験および留学経験で得られたと語る。

## 多様性の中で培われたオープンマインド

留学は、研究の進め方や私生活における価値観の違いを、直接感じる機会となった。現地の教員・学生と共同研究に取り組む中で、異なる意見を尊重するだけでなく、新たな視点として自分の考えや行動に生かすことで、信頼関係が構築され、研究が円滑に進むことを実感した。

企業において、様々な背景をもった専門家と協働し成果を生み出すためには、多様な視点を受け入れ、変化を前向きに楽しむオープンマインドな姿勢が重要だという。

## 学生へのメッセージ

博士課程で研究をやりきった経験は、企業でも研究を成立させるデザイン力として生かされます。企業では様々な背景を持つ人と一緒に仕事に取り組みますので、多様な視点や知識を得る機会が豊富にあります。その機会を有効に活用するために、学生のうちから自分とは異なる考え方や価値観に触れ、それを楽しむ姿勢を大切にすると良いと思います。

経歴

| 役職              | 具体的な仕事内容                                                                               |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 2019年<br>総合職企画員 | 入社、制御イノベーションセンタ ドライブシステム研究部配属<br>産業用電源システムに使用されるパワーデバイスの研究開発において、<br>市場分析と製品コンセプト開発に従事 |
| 2020年<br>研究員    | 同部、同研究テーマにおいて、技術開発と試作品開発に従事                                                            |
| 2024年～<br>研究員   | グリーンインフライノベーションセンタ 産業インフラシステム研究部<br>所属。産業用電源システムの研究開発に従事                               |

## 博士 × 「越境力」



OSAKABE Yoshihiro

刑部 好弘

博士(工学)

研究開発グループ主任研究員

✓ 非ノイマン型計算機のアルゴリズムと超伝導集積回路によるハードウェア構成の研究により、博士号を取得

アカデミアへの道を志望し、博士課程へ進学。博士課程在籍時、日立製作所社員の話を聞く機会があり、企業での研究も面白そうだったことがきっかけで、企業への就職へ進路を変更。

複雑な社会課題の解決には、異分野の専門家との協創が不可欠。そのためには、自分の専門分野に閉じこもらず、異分野の研究者と交流する「越境力」が重要だと語る。

## 未知の領域に越境する力

自身の研究を魅力的に発信したり、逆に他者の研究内容を聞きその面白さに共感することは、インスピレーションをもたらしてくれる。一緒に面白がってくれる人が集まってくれば、より大きな成果に繋がることもある。そうやって仲間を増やし巻き込みながら未知の領域を開拓していく越境力が、現在進行形の様々な共同研究の実現にも結びついている。

## 学生へのメッセージ

博士課程は、一つの思考に贅沢に時間を費やすことのできる貴重な期間です。社会人になると研究時間も細切れになりがちで、長時間じっくり思考を深めるような機会は少なくなっていくと思います。学生というアドバンテージを最大限に生かし、時間を大切にしてください。

経歴

| 役職              | 具体的な仕事内容                                                                                         |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2018年<br>総合職企画員 | 入社、人工知能イノベーションセンタ 知能情報研究部配属<br>多目的最適化技術や地理空間データ分析技術の研究に従事                                        |
| 2019年<br>研究員    | 先端AIイノベーションセンタ 知能情報研究部所属<br>材料科学分野のAI(MI: マテリアルズインフォマティクス)の研究に従事                                 |
| 2024年～<br>主任研究員 | 同センタ データサイエンスラボトリ所属<br>MIの適用範囲を拡張し、生命科学・バイオ分野をはじめとする、様々な自然科学の研究を支援する AI (AI4Science) の研究を産学連携で推進 |

## 企業研究者として研究開発に従事する醍醐味

### 【三輪】

社会実装が重要なキーワード。研究者自らが顧客のニーズや課題を調査し、ビジネスモデルを構築して研究開発に取り組む必要がある。その過程で専門技術とビジネスリテラシーの両方が向上すること、また、それらを駆使して新しいシステムを構築することに楽しみを感じている。

### 【刑部】

技術を社会に普及していくためには、社会や経済の仕組みを理解する必要がある。研究を組み立てる過程で、社会実装をゴールにバックキャストで考える視点は、企業で研究に従事して得られた。

## 企業就職後も活かされる論理的思考力

### 【三輪】

論文執筆や指導教員とのディスカッションで磨かれた論理的思考力は、企業でも生かされている。研究成果を商業化するにあたり必要な市場分析やビジネスモデル構築などのプロセスを、戦略的に推進する上で論理的思考力は重要。

### 【刑部】

論理的思考に加えて、物理系と情報系との学際領域で研究してきた博士課程での経験は、異分野の研究者と円滑にコミュニケーションを取り、お互いの強みを生かすうえで非常に役に立っている。

## 入社後、博士号が生かされた経験

### 【刑部】

所属している部署では、博士号取得者は自主性を持って取り組むことができる研究者と評価され、研究を進めていく上での意思決定も尊重してもらえる。裁量をもって研究ができる環境だと感じている。

### 【三輪】

国際会議での発表経験や留学経験から、早期に海外研究者との議論に参加させていただく機会があった。

## インターンシップへの参加について

### 【刑部】

インターンシップを通して企業で働くことへのイメージを理解してもらうことができる。社風・風土によって企業ごとに研究環境は変わるので、学生がもつ企業、研究職のイメージと実態とのギャップを埋める機会となる。

## 会社情報



## 採用情報等へのアクセス

日立製作所では博士課程学生の方を積極的に採用しています。博士の方に向けて様々なコンテンツを公開していますので、是非ご覧ください。

## 博士採用情報

博士課程学生の方に向けてキャリアのヒントになるようなコンテンツやイベントを掲載しています。「博士キャリアサポート」 窓口に登録いただいた方には、各種イベント、インターンや採用に関するご案内を通じてキャリア支援をしています。是非ご登録ください。



## 研究内容紹介

研究開発グループの研究分野ごとの概要や学会実績、案件実績等をまとめたページです。



## 文部科学省ジョブ型研究インターンシップ

### ▶ 日立のプログラムの特徴

- 有期(アルバイト)雇用で就業。実際の業務を経験できる。
- 短期のインターンと比較してして研究者の実際の業務をより広域に経験することができる。
- 応用研究を学び、ビジネスに実際に関わるといった企業研究のリアルを経験できる。



従来のインターンシップ

数週間(短期間)

“ジョブの領域が限定的”

文部科学省  
ジョブ型研究インターンシップ

2ヶ月以上(長期間)

“ジョブの領域が広義”=“フルスペック”

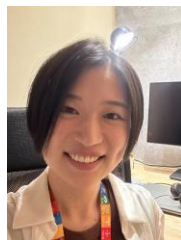
企業の研究職をリアルに経験できる

インターン期間中の成果を国際学会で発表した方もいます。ご参照ください。



## ⑤ 人文社会の専門知識を身につけて活躍されている例

## 博士 × 「他分野との連携による社会課題解決」



YAMANAMI Chika

山並 千佳 博士(国際公共政策)

富士通株式会社 富士通研究所  
 コンバーGINGテクノロジー研究所  
 ソーシャルデジタルツイン コアプロジェクト

✔ 就労意欲の決定要因に関する研究により、博士号を取得。

比較公共政策専攻で博士号を取得し、前職では人事部門にて人事データを用いた組織の課題解決に従事。現在は、デジタルテクノロジーと人文・社会科学などの分野の知見を融合したコンバーGINGテクノロジーの開発に取り組んでいる。

異なる専門性を持つ人と協働していく上では、自分の専門性に関わることを正しく適切に相手に伝えること、また、自身の専門分野を理解するだけでなく、隣接する関係分野の理解に努め、何が違うのかという点を、相手としっかりとすり合わせていくことが重要だと語る。

## 対話により研究と現場の間を取り持つ

富士通のR&D部門に勤務し、課題解決策を実世界に適用する前に、人々の動きを高精度に予測してデジタル空間で再現することで、施策が与える効果や影響を把握し最適解を探索するという技術の研究開発にチームで取り組んでいる。実際の世の中はシミュレーションより複雑で、様々なバイアスもあるが、そのギャップを埋めるために、自分の専門である経済学の理論や社会科学の知見を生かして取り組んでいる。研究の一環として、どんな施策を実施すると、実際に誰がどのくらい健康診断を受けてくれるのかという、健康診断の受診勧奨を題材としたPoC (Proof of Concept: 概念実証) に、経済学の立場から工学の専門家と取り組んでいる。シミュレーションと実際の現場との乖離の状況を分析するにあたり、経済学と工学では言葉の使い方や関心事項、研究のモチベーションが異なる場合もあり、上手くすり合わせる必要が出てくる。「ここでの言葉はこういう意図である」や「この発言の背景にはこういう経済のモデルがある」、「ここは工学的な観点から定量化する必要がある」など、対話により研究と現場の間を取り持つことは、共同で研究を進める上で重要なことだと感じている。

## 学生へのメッセージ

世の中の解決しなければいけない社会課題の幅は、とても広いです。そして、実際の課題は、「この分野の課題」という形では現れないため、様々な分野の人たちとの連携や協力が必要となります。その時に、自身の考えや専門分野の知見をしっかりと説明できることが大切です。博士課程は、研究にフルコミットできる貴重な時間です。研究成果を社会に還元すること、専門性を磨き、深めていくことを大切にしてほしいと思っています。

人文・社会科学系の人たちは、自覚的な人は少ないかもしれませんが、社会の複雑さと向き合う力や、なぜそうなのかという「なぜ」を深掘して課題設定をする力に長けていると思っています。抽象的な理論を扱うことも多く、抽象的な物事を扱うことは人文・社会科学系の博士にこそ強みがあり、企業や研究機関で重宝される場所です。

キャリアについては、人文・社会科学分野であっても、インターンを受け入れていたり、博士号があると中途採用枠を使える企業が増えてきています。博士課程進学のリスクは低くなってきていると思うので、自分のやってみたいことに素直になって、挑戦してほしいと思っています。

## 経歴

## 役職

## 具体的な仕事内容

2019年～2023年  
民間企業 (人事職)

日系グローバル企業の人事部に中途採用により就職。  
労働経済学の研究経験を活かし、人事情報に関するビッグデータの解析を担当。

2023年～現在  
富士通株式会社 (研究職)

コンバーGINGテクノロジー研究所において、社会課題解決に繋がる介入施策の設計と、その効果検証を組み込んだシステムの研究開発に携わる。

## 大学時代に学んでよかったこと

実際の世の中のデータの集め方や使い方を、大学時代に勉強できたことは非常に良かった。経済学の理論とデータの扱い方に関する専門的な知識は、汎用性の高いスキルとして仕事に生きている。また、大学時代参加したリーディング大学院「超域イノベーション博士課程プログラム」は、文理を超えてあらゆる分野の学生が集まって課題解決を目指すプログラムであり、他の分野と自分の分野は何が違うのか、それぞれの分野の独自性はどこにあって何が違うのかなど、自分の分野の特徴を相対化することを学生時代にできたことは、多彩なバックグラウンドを持つ人たちと働くにあたり役立っていると感じる。

## 学生時代の労働経済学の研究経験を生かし、民間企業へ就職

研究を社会に実装する役割を担いたい、そのためには専門を身に付けた上で現場に飛び込むべきだと考え、人事データを活用して社員のエンゲージメントを高めるピープルアナリティクスの部署に応募をした。大企業の人事データという、大学からはアクセスが難しいデータを活用した分析ができるという点に、魅力を感じて入社を決めた。

## より社会に役に立ちたいと考え転職

人事の仕事はやりがいがあったが、数年前に私自身が洪水により被災し、支援物資や情報が必要なところに届かない、社会的に弱い立場にある人が特に影響を受けてしまう、といった実態に直面し、自分の無力さを感じる経験をした。これが一つのきっかけとなり、社会サービスやインフラをはじめとした社会課題に対して、経済学・社会科学の知見が使えるのではないか、自分にも何かできることがあるのではないか、より社会に役に立つという視点での仕事をしたいと感じ、転職を考え始めた。様々な仕事を探中で、人文・社会科学の知見とデジタルテクノロジーを組み合わせ、社会課題を解決する技術を研究開発していくという、今の会社に転職をした。

## 仕事の魅力

論文を書くことに加えて、社会課題に立脚した研究を行い、実装を通じて社会を良くしていける可能性がある、そうした影響力があることが、民間企業で研究開発の仕事をする魅力と言える。特に今の会社は、自治体の行政サービスや健康系のシステムなど、既に様々なサービスを提供しているため、研究開発を通じて、一気に世の中を良くできる可能性・ポテンシャルがあり魅力を感じている。

## 会社情報



### 採用情報へのアクセス



|          |                                                                                                     |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 採用ページ    | <a href="https://fujitsu.recruiting.jp.fujitsu.com/">https://fujitsu.recruiting.jp.fujitsu.com/</a> |
| 企業トップページ | <a href="https://global.fujitsu/ja-jp">https://global.fujitsu/ja-jp</a>                             |



### 博士人材採用のための取り組み



博士インターンシップ（長期・有償）学生の長期休暇期間を中心に通年で3ヵ月程度受け入れ/大学と企業人事でのキャリア形成機会の主催/共同研究を通じた研究員と学生の直接交流/関連領域学会・出身研究室での技術交流/博士人材向けイベントへの参画/オンラインでの社員OBOG訪問の受入/卓越社会人博士制度など。



### 博士人材の処遇について

|             |                                                                            |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 初任給(2024年度) | 博士号取得者：327,000円以上（2024年4月入社者実績）<br>※今後は一律の初任給ではなく、スキルや専門性・担う職務や職責に応じて個々に設定 |
| 昇給          | 年1回 ※給与改定                                                                  |
| 賞与          | 年2回（6月、12月）                                                                |
| 休日休暇        | 完全週休2日制（土・日）、祝日、年末年始、特別休暇<br>※年間休日126日（2024年度）年次有給休暇20日                    |
| 勤務時間        | 8時45分～17時30分（7時間45分／休憩1時間）※コアタイムのないフレックス勤務の適用職場も多数あり                       |



### アピールポイント

創業以来、Technology Companyとして高度な専門性を持つ人材を積極採用してきた富士通では、R&D領域を中心に多くの博士号取得者が活躍しています。入社後も論文執筆や学会発表などを通じて研究者としてのキャリアを重ねながら、ボトムアップ研究テーマを企業研究として社会課題の解決に繋げる挑戦機会や海外留学や海外駐在、共同研究先の大学への常駐の機会もあります。中には大学の客員教授・講師、社外アドバイザーなどを兼任して活躍している研究員もいます。また、研究の進め方、働き方（働く場所・時間）は、組織と個人で最適な選択をできるため、裁量権をもって研究に打ち込める環境になっています。

博士後期課程の修了者は、新卒採用だけでなく通年でのキャリア採用も行っていますので、ご応募お待ちしております！

# 謝辞

下記一覧及び企業名掲載希望しないと回答いただいた企業含めて数多くの企業から、「博士人材の活躍促進に向けたロールモデル事例集作成のための事前調査」にご協力いただき、本事例集のロールモデルのご推薦や博士人材活躍促進に向けた貴重なご意見をいただきました。この場をかりて御礼申し上げます。

また、「博士人材の活躍促進に向けたロールモデル事例集作成のための事前調査」の調査にあたり、経済団体の皆様よりご助言や周知のご協力を賜りました。御礼申し上げます。

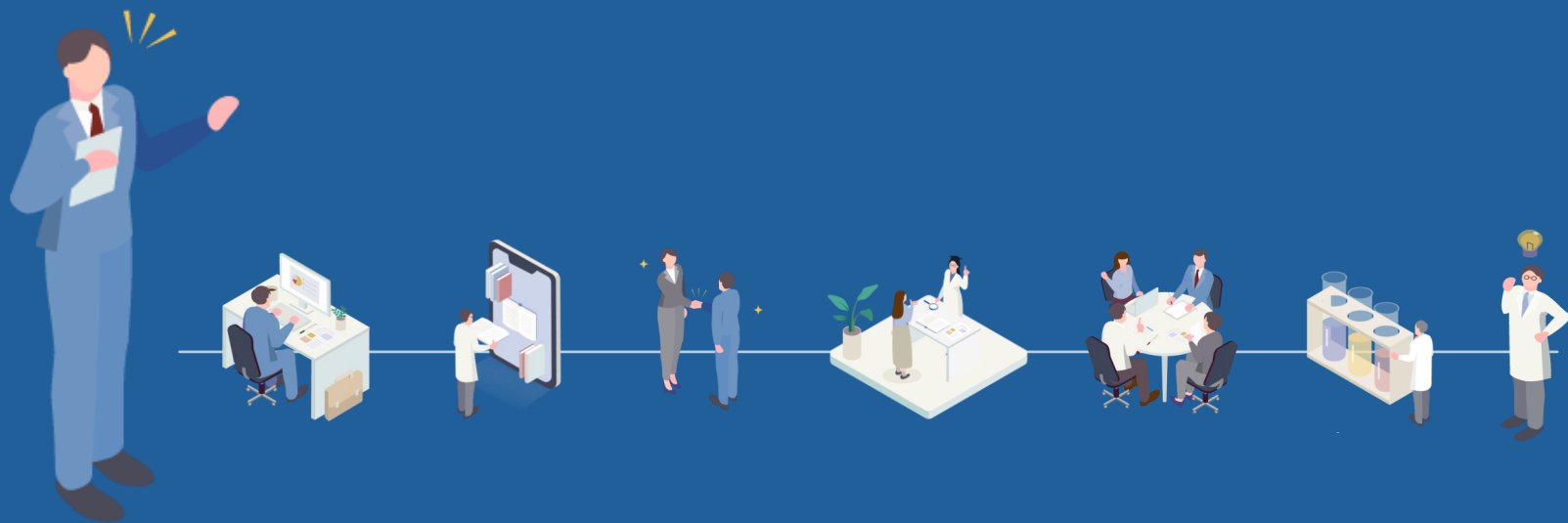
|    |                |    |                    |    |                    |
|----|----------------|----|--------------------|----|--------------------|
| 1  | 旭化成株式会社        | 21 | 東京応化工業株式会社         | 41 | マイクロ波化学株式会社        |
| 2  | 株式会社ETSグループ    | 22 | 東京ガス株式会社           | 42 | 株式会社マネーフォワード       |
| 3  | 株式会社岩田商会       | 23 | TOPPANホールディングス株式会社 | 43 | 株式会社MIXI           |
| 4  | AGC株式会社        | 24 | 株式会社日本海コンサルタント     | 44 | 三菱重工業株式会社          |
| 5  | 株式会社大阪ソーダ      | 25 | 日本新薬株式会社           | 45 | 株式会社明電舎            |
| 6  | 株式会社奥村組        | 26 | 野村證券株式会社           | 46 | ユニアデックス株式会社        |
| 7  | 川崎重工業株式会社      | 27 | パナソニックホールディングス株式会社 | 47 | 株式会社吉野家ホールディングス    |
| 8  | 関西電力株式会社       | 28 | PicoCELA株式会社       | 48 | レンゴー株式会社           |
| 9  | 株式会社紀陽銀行       | 29 | 株式会社日立製作所          | 49 | 株式会社ワークスアプリケーションズ  |
| 10 | 株式会社クボタ        | 30 | BIPROGY株式会社        | 50 | 一般社団法人 新経済連盟 ★     |
| 11 | 広栄化学株式会社       | 31 | 株式会社フジクラ           | 51 | 一般社団法人 日本経済団体連合会 ★ |
| 12 | 一般社団法人国際P2M学会  | 32 | 富士通株式会社            | 52 | 公益社団法人 関西経済連合会 ☆★  |
| 13 | ジェダイトメディスン株式会社 | 33 | 富士紡ホールディングス株式会社    | 53 | 公益社団法人 経済同友会 ★     |
| 14 | 株式会社島津製作所      | 34 | フューチャー株式会社         | 54 | 日本商工会議所 ★          |
| 15 | 住友生命保険相互会社     | 35 | フューチャーアーキテクト株式会社   | 55 | 株式会社三菱総合研究所 ☆      |
| 16 | 大和証券株式会社       | 36 | 古河電気工業株式会社         |    |                    |
| 17 | 株式会社大和証券グループ   | 37 | 株式会社ベネッセコーポレーション   |    |                    |
| 18 | 大和ハウス工業株式会社    | 38 | Polar Fox株式会社      |    |                    |
| 19 | 中外製薬株式会社       | 39 | 株式会社堀場製作所          |    |                    |
| 20 | 帝人株式会社         | 40 | 株式会社PoliPoli       |    |                    |

※ 五十音順

☆「博士人材の活躍促進に向けたロールモデル事例集作成のための事前調査」の調査項目等についてご助言を賜りました

★「博士人材の活躍促進に向けたロールモデル事例集作成のための事前調査」の広く周知・展開にご協力を賜りました





令和 7 年 3 月 2 6 日